UFOと宇宙哲学の研究誌

GAPニュースレター

No. 63

GAPニューズレター　第63号目次

〈巻頭言〉予　知…1

世界の変動　ジョージ・アダムスキー…2

若さの泉―老化の時計　アリス・ウェルズ…3

昭和52年度　日本GAP総会開催
フレッド・ステックリング氏夫妻の講演…4

総会会計報告…31

会員の声…32

日本GAP月例研究会案内…40

編集後記…41

★本誌掲載記事の内、海外関係のものは翻訳転載権取得済。
写真共禁無断転載。

GAPとは

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について「知る」機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて『コスミック・パワー』の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた「生命の科学」の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通して真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群から偉大な指導をとげた人類が地球を訪問しつつある。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の起源と未来の運命の真実を知るのに有益である。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

昨年十一月二十八日付朝日新聞朝刊に唐山地震に関する興味深い記事が出ていた。一昨年中国河北省で発生したマグニチュード7・8のこの大地震で唐山市を中心に死者は少なくとも十数万に達したという。しかし動物たちはこれを事前に予知していた事実が明らかにされた。中国、国家地質総局編の「地震問答」改訂版によると次のとおりである。

「七月二十八日未明の本震の一～三日前に唐山地区でイタチやネズミが群れをなして引っ越し、白昼に人の姿を見ても逃げなかった。地震発生の数時間～十数時間前にはイヌが狂ったようにほえ、多くの馬、ラバ、ロバが小屋に入るのをいやがった。ニワトリ、ブタ、ウサギ、ドジョウなどの魚類を含めて十種類以上の動物が異常を示した。

北京動物園では七月十六日にワニが牛のような声でほえ、同二十六日にはオランウータンが二十分間に四、五十回鳴いた。前夜にはカモ、トラ、キリンなどが異常を示し、地震直前に再びオランウータンが恐怖の叫び声をあげた」

中国は大衆の協力により独特な地震予知網をしいているから、これらの観測記録は真実だろう。要するに地震の前に放射されるある特殊な波動を動物たちは感知するけれども人間さまは気付かないということなのだ。

動物よりもはるかに精密な人体を持つ人間が、なぜ予知できないのだろう。理由はどうやら自然に即した生活をしないために本来潜在している特殊な感覚をマヒさせ眠らせているためらしい。それ以上に重要なのは、人間にそんな感知などできるはずはないと思い込んで、感覚を鋭敏化させる訓練をやらないことにあるのだろう。動物の予知現象は唐山地震ばかりではなく、他にも無数の例がある。大正十二年の関東大震災の前日には神田川（今はドブ川だが当時は水が澄んでいた）に多数のウナギが一斉に顔を出したというし、たしか二十年前頃イタリア奥地のダムが決壊して一村が全滅したときも、数日前から村のあらゆる動物が狂気のように走り去ったという事件が古いリーダーズ・ダイジェストに載っていた。もっと不思議なのは、船火事が発生する前に船中にいるネズミの群れが係留索を伝わってぞろぞろと岸壁へ避難する事実である。地震やダムの崩壊などは事前に微弱な物理的振動波が伝播するとも考えられるが、火事に至っては振動波など思いもよらない。なにか別な要素をキャッチするのか、あるいは四次元的な何かを感知するのか、とにかく謎である。

予知

しかし人間にも大気の気圧や温度の変化によって快・不快を感じる程度の能力があることを考えれば、火事の予知はともかくとして、事前に物理的変化を起こすと思われる地震の予知は、訓練次第で可能になるのではないだろうか。

いったいに地球の異常気象は年々激烈になっている。週刊朝日の十二月二十三日号に「七十七年、地球この異常ぶり」と題する記事が出ているが、それを読むと意外な事実が判明する。昨年の一、二月は北極寒気団の攻勢により日本列島は冷凍室化し、米国中西部と東部も零下三十度近い寒波に襲われて産業面で大被害を受け、多数の凍死者が出た。一方、その頃のシドニーは史上最高の四十度以上の熱波に見舞われた。八月に東京は連続降雨二十二日、同月中旬の日照時間は十日間でたったの三・五時間、これは気象庁始まって以来の記録という。十一月になっても富士山に雪が降らず、十二月の各地スキー場は商売お手上げという記事が新聞をにぎわした。世界中の異常例をあげればキリがないが、気象庁の長期予報官によれば、地球全体の天候が変化しつつあるのは間違いないのだから、日本列島も例外ではない。五十三年も何らかの型の異常は必ず起こるとみるべきだという。大体に北半球は徐々に寒冷化しているそうだが、それにしてもこの暖冬異変はただごとではない。加うるに巨大地震がいつどこで発生するか、わかったものではない。

もちろん本稿は恐怖心をあおりたてるのを目的とするものではなく、動物の生態を観察することによって未知の事柄を学ぶ余地があることを示唆したものである。人間が自然界を無視する傾向が強くなった今日の状況は、人間自身を死人とし、地球を墓地化しているといっても過言ではない。

どうすればよいか。一個人が騒ぎたてもどうにもならぬ事だろうか。大変動が発生すればそれまでだと悠揚せまらざる態度を持っているつもりで手をこまねいていてよいものか。

別な惑星から大母船が救出に来るだろうか。まず来ないだろう。一部の人のみを援助して他を見殺しにするのは不公平だから、救出するとなれば全地球人を対象にしなければならず、そのためには三千五百人収容の大空艇を百万機も必要とする。かりに来たところでステックリング氏が言うように財産を投げ捨ててまで乗り込もうとする人はほとんどおらず、むしろ空中の大船団の出現によりパニックが発生するだろう。「明日カタストロフィー（破滅的大変動）が発生するから乗れ」と言われても、現実に直面するまではだれも信じようとしないのだ。

だが大母船が実際に来たとしたらどうだろう。その場合は信じて乗り込む人が助かるだけのことである。しかし信じる裏には、「何かが発生するのだ」という予知感が土台になっているはずである。百信もあるにせよ precognition（予知）プラス belief（信用）が大体に基本的なパターンであってこの予知感を本人は意識しない場合もあろうが、裏付けになっている例は多くあるだろう。また belief（信ずること）を確実なものにするのはどうしても予知は必要である。とすると人間の生き方には根本的な欠陥があるのではなかろうか。もっと自然界に返って動物を見習いながら眼を開くことからやり直すべきだ、ということになる。

世界の変動

ジョージ・アダムスキー

今、世界には多くの変動が発生しています。これは今後数年間続くでしょう。これはこの世界や太陽系自体までが大きな転換期にあるためです。地球物理的な変動が起こるばかりでなく、社会自体にも多くの変動が起こるでしょう。社会で発生する各種の変動はさまざまの種類のものになるでしょう。

人間が望んでいる安定した状態、心と世の中の平安などは、この転換期が終わるまでは来ないでしょう。最もよく知っている人々は、この地球が位置を変えつつあることに気づいていますが、同じ事が太陽系にも発生しつつあることには気づいていません。そうなると太陽系内のあらゆる惑星は影響を受けるでしょうしなかには他の惑星群よりも激烈な影響を受ける惑星もあるでしょう。地球は最大の影響をこうむる惑星群の一つです。これは逆立ちしている人にたとえられます。血液が頭の方に流れ、肉体のあらゆる器官はねじれてしまいます。そうするとあらゆる分子は新しい位置を求めますが、地球もこれと同じ状態になります。

地球はある一定点まで緩慢な変化を経ています。この新しい位置にむかって動くにつれて、その内部のあらゆる要素は同じ目標にむかってその位置を変えてゆきます。人間もこれと同じ無機物や要素で出来ていますから、やはり影響を受けるでしょう。人間は気候や大気のわずかな変化にも反応を示しますが、それと同様に来たるべき変動にも反応を示すでしょう。自然界が進展してゆく限り人間の心の中に不安は広がるでしょう。地球の変化が終われば人間の不安な気持も終わるでしょう。

以上の理由により、未来に発生するといわれている変動について多種類の予言が出てくるのです。二十五億の人間は「発生するだろう」とみんなが考えている物事に関して、期待の想念を放っています。大抵の予言はこうした想念の影響以外の何物でもありません。人間の心についてほとんど理解していない人々は、こうした想念を受けて、それがスペース・ピープルからのメッセージまたは神からの啓示だと思い込みます。当然、こうした想念類の小部分は正しいので、人々はワナにはまって、自分が生きた実体、または神とコンタクトしていると信じ込むのです。

地球自体が落ち着くまでは、こうした期待の結果として未来に関する予言は続くでしょう。地球が落ち着けば人間も落ち着くでしょう。

一方、この不安に満ちた現状下では、カタストロフィー（大破滅）が発生するかもしれません。何が人間に影響を与えているかに気付かないで、人間は自己の周囲の関係ある状況を是正しようとして破滅的な事をやらかすかもしれません。ちょっとした忍耐力と、実際に起こっている物事の理解力があれば、人間は自然界を正しい道に行かせることができるのです。過去よりも未来において人間により大きな奉仕をなさしめるように自然界は変化すると言ってよいでしょう。だからある印象は大いなる未来を語るのですが、一方、大抵の印象は破滅を語るわけです。性急と知識の欠乏による破滅です。

今このことが世界中に発生しているのを見ることができます。それは個人や国家間で起こっています。大抵の場合に不快な状態が存在しますが、これは進歩が行なわれる唯一の道であるようにも思われます。自然界はそれ自体の方法を持っていますが、人間は別な方法に従います。自然界はときとして人間に不快と思われる事を多くやりますが、これは自然の法則の誤った理解のためです。肥料の匂いも不快ですが、ソロモン王は言っています。「肥料によって百合は生長する」

何が起こっているかを理解するためには、自分を感情の混乱にゆだねないことです。心を静めて、自己の周囲にあるもろもろの期待感に身をゆだねないようにしなさい。

美しい牧草地に達するには沼地を越える必要があるでしょう。現在私たちはその沼地の中にいると言えます。私たちはあらゆる種類のイデオロギーに取り巻かれていますが、そのなかには良いのもあればわるいのもあります。新しいものを人類に役立たせるには、それが生まれる前に古いものを去らせる必要があります。賢明な人は変化のあらゆる動きを観察しますが、愚かな人は荒れ狂って自分を滅すでしょう。

久保田八郎訳

この記事は一九六〇年代に書かれたもので現状の分析ではないが、関連はあると思われる（編者）。

若さの泉—老化の時計

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

ジョージ・アダムスキー財団理事長
アリス・ウェルズ

ジョージ・アダムスキーの著書『宇宙船の内部』（邦訳『宇宙からの訪問者』ユニバース社刊）で述べられた最も驚くべき記事の一つは、おそらく他の惑星の人々の寿命の長さに関する部分でしょう。二百歳、三百歳という数字に人は驚くでしょうが、四百歳、五百歳も珍しいことではなく、一千歳に達する人もいると述べております。

ところで、それから何年か後に、科学者が老化とその原因を調査して、興味ある論説を発表しています。科学ライターのアルバート・ローゼンフェルド著『長寿法』から引用しましょう。

「ある研究家は、老化の時計、すなわち遺伝的にきめられたプログラムが存在すると確信している。これが、我々が年をとり死ぬのだということを指示するのである。もっと重要なのは、我々がそうする速度を指示することにある」

またローゼンフェルドは、我々はこの〝老化の時計〟をコントロールして今後の数世紀よりも今それから利益を得始めることができると確信している、と述べています。

人間が年をとる理由については多数の説があります。最もよく知られている考え方の一つは、細胞が捨て去ることのできない化学物質の〝ゴミ〟がたまるからだというものです。ジョージ・アダムスキーは『生命の科学』の第六課で『〝新鮮さ〟は人間の若返り薬』と題して述べています。ただの新しいコートやその他の衣類よりも、新鮮さには、はるかにそれ以上のものがあります。各細胞が良好かつ永続的な活動状態に保たれるためには、絶えず若返らねばなりません。

この問題についてまだ多くの学ぶべき事が残っていることは、科学者さえ同意しているところです。なぜなら各種の細胞が起こす活動や変化を研究しなければならないからです。このことは『生命の科学』の第九課『宇宙的細胞と肉体の細胞の活動』で述べられています。解決のカギはすべてそこに記してありますから、私たちはそれを応用して望ましい結果を得さえすればよいのです。

長い時代を通じて、人間は生と死の秘密——〝若さの泉〟から出る魔法の霊薬を探し求めてきました。しかし人間自身を多く学ぶにつれて、私たちは〝若さの泉〟が一定の場所で発見されるものではないことを知っています。適切な場所で生活すること、すなわち〝環境〟が相違をもたらすのです。しかしある場所をだれが〝エデンの園〟にするのでしょう？それは各人みずからではありませんか。

したがって、それは環境や食べ物ばかりではなく、人間内部の生き方や態度にかかっています。感覚器官の訓練や心と〝意識〟との一体化、これらは〝生命〟の一部分であり、私たちに年をとらせるものの一部分です。

到る所にいる人々をちょっと見まわしてごらんなさい。みんなが社会的経済的条件や伝統などで課される重荷を背負って働いています。自分自身の心の摩擦や内部のやすらぎの欠乏についてはいうまでもありません。これでは人間が老化し、必要以上に若死にするのは当然です。最強の桶でさえもある期間もちこたえたあとは破損するのです。

状況のすべてを考えてみれば、少々新鮮な果物や種子を食べたり〝魔法の不死の霊薬〟を飲んだりするよりも、長寿法にもっと大きな問題があることがわかります。年をとるということは、あらゆる種類の摩擦によってひき起こされる綜合的な状態なのです。一、二の局面ではなく、人間の生き方と環境の全面的な変化が必要となるでしょう。

現状下でこれをなすのは困難かもしれません。地球をとり巻く環境はたしかにひどいものになっているからです。ある程度の心のやすらぎを得るための感覚器官の訓練は容易ではありません。

だからこそ人はできるだけ自分自身やあらゆる生命に関する知識を得ようと努力することが、自分の義務であるということになります。無知は人間に最大の危険を与えます。簡単な生命の法則に対してメクラにしてしまうからで、しかもそれはのがれられないのです。

五百歳から一千歳の年齢に達する人々のことを聞くとき、他のあらゆるものが平等であるならば、それは全然不可能ではありません。ただ一つの事が残ります。それは「私たちは現在よりも二倍の寿命を得ようと望んでいるか」ということです。私は多くの人に次の簡単な質問をしてみました。「あなたは五百歳まで生きたいと思いますか」。半数以上の人は「とんでもない」と答えています。奇妙ではありませんか。他人に（別な惑星の人々に）与えられているというのに、この生命の贈り物は望まれてさえいないのです。実際、地球人は妙な人種になっています。人間は生きて難儀な目にあうよりも、死んで、自分の世話をすべてしてくれる〝天国〟へ行きたがっています。人間がいつか自分の運命の主人になるためには、自分の生活のあらゆる面を知る必要があるでしょう。

●昭和五十二年度 日本GAP総会開催 満員の大盛況！

宇宙の法則を説く

ステックリング氏夫妻の講演

宇宙的フィーリングが場内に充満
スペース・ブラザーが来場していた！

既報のとおり去る十一月十三日、日本GAPは昭和五十二年度日本GAP総会を東京・新橋のヤクルトホールで開催いたしました。五百七十名収容の大ホールは満員の盛況となり、GAP創立以来の素晴らしい大会が実現しました。フレッド・ステックリング氏夫妻招待募金運動にご支援を頂いた全国の会員諸兄姉及び、当日ご来場下さった方々、総会運営に献身的なご尽力をたまわった当日役員の方々に衷心より御礼を申し上げます。以下、当日の模様と講演内容を再録いたします。

（編者）

× × ×

新橋駅より徒歩三分のヤクルトホールはモダンな高層ビルの二階に設置された超近代的な豪華会場である。定刻は十時となっていたが、九時過ぎより受付に来場者が続々と詰めかけて長蛇の列をなした。受付嬢たちの中に和服の盛装で、にこやかに応待する穴原美智子嬢の姿が、ひときわ精彩を放つ。彼女は短大英文科出身だが、キモノの着つけの先生とあって、そこは堂にいったもの。その他受付には昨夏「中米宇宙考古学遺跡の旅」に参加した菅原恵子さん、近藤富子さんや加藤登志子さんの姿も見える。彼女らはカリフォルニア州ビスタですでにステックリング氏の夫人イングリッドさんとは面会ずみである。

一方、主宰者久保田八郎は単身でホテルへステックリング氏夫妻と愛娘のエリシアちゃんを迎えに行き、タクシーでヤクルトホールの裏口から入って、五階の控室へ案内した。控室は瓜呂までついた豪華版で、夫妻は眼を丸くしている。

ここで司会者の片京氏（日本GAP大阪支部長）と通訳のセイコ・ビーリーさんと合流し、一応の打ち合わせをすませた。

定刻十分前に一同はエレベーターで二階へ降りて、ステージわきのピアノのそばに待機する。成功すればよいがと編者は全身緊張させて、こっそりと会場をのぞいた。大ホールはほとんど満員の状態だ。やった！と胸をなでおろす。人数の多寡は問題ではないにしても、やはり多いほど嬉しい。ステックリング氏は講演等に慣れているせいか、悠然と落ち着いている。

いよいよ定刻となり、まず片氏がステージに出て開会の宣言をする。柔和な氏も落ち着いたものだ。続いて編者の番となり、ステージ中央に出て前座の紹介役をつとめる。会場が暗く、照明がやたらとこちらへ集中するので少々まぶしくて、会場を見渡しても知り合いの方々の顔がさっぱり見あたらない。

持ち出した原稿を見ながら、予定どおりにしゃべったが、なるべく顔を前方へ向けなくてはと意識しながらも、忘れっぽい編者はどうしても原稿に眼が落ちていけない。このクセは直す必要があることをつくづく感じた。カメラの大放列により場内に響き渡る機関銃のようなシャッター音に驚いたが、これはステックリング氏もあとでびっくりしていた。

やっとの思いで挨拶・紹介を終わり、通訳席に腰をおろすと、万雷の拍手に迎えられてステックリング氏が壇上に現れた。手にした原稿を見ながら淡々と朗読調で話す氏を意外に思った。実は前日に氏と二人で講演内容について打ち合わせをしたのだが、張り切っている氏の顔を見て、熱狂的な演説口調を予想していたのに、実際はそうではなく、全くの平静な話しぶりが展開したからである。ここは通訳たる編者の声を張り上げて雰囲気を高揚させねばと、一生懸命に日本語を響かせた。編者の声はテープ録音等により少し発音が曖昧であることを自分でよく承知しているので、なるべく口をいっぱいに開くように意識的に努めたのだが、あとで録音を聞いてみると、まだ不充分なことを痛感した。しかもステックリング氏の講演内容は実に素晴らしく、特に、小島がひとつがいとなって暮らすのに教会も結婚式も必要とせず、彼らはただ創造主から与えられた責任を遂行しているだけだという部分になると、ひどく感動して、このときは声が震えてしまった。どうも心の平静さを失いがちで、ダメなわが身よと内心でステックリング氏に謝りながら、ともかくも通訳を終えて立ち上がったときは、ひざがガクガク震えていた。

続いてイングリッド夫人がステージに出て挨拶をされる。通訳は交替してセイコ・ビーリー夫人となる。ビーリーさんのご主人はアメリカ人で編者の語学顧問として親しい間柄である関係上、その奥さんにお願いしたのである。

ステージわきのピアノのかげに入って一息つきながらステックリング氏と握手を交わし、「Congratulations! Your speech was very good.（おめでとう。大変立派な講演でしたね。）」と言うと、「Thank you. Your translation was better.（有難う。あなたの通訳がよかったのだ）」と謙遜して、日本の聴衆の人々が実に素晴らしい、自分はずいぶん多くの講演をアメリカやヨーロッパで行なったが、こんなに熱心な反応を示した人々はこれが初めてだ、アメリカなどではこれほどの関心を示しませんよ、などと

●片　京氏の司会で始まる

●ヤクルトホールの会場受付

話していた。これはお世辞ではなくて、心底からの感動であったらしい。その後も、日本人の立派なマナーと規律の正しさに夫妻はたびたび感歎しておられたし、一種の神秘感がただよっていることも指摘された。

イングリッド夫人の挨拶が終わってから花束贈呈が行なわれた。この演出は事前に関係者一同と練りに練ったもので、編者の強い要望により、花束贈呈要員三名は和服の盛装で出場しようということになって、宮城県からはるばるかけつけた佐藤和枝さん、都内の竹内澄江さん、越崎裕子さんにお願いした。およそ世界の民族衣装で日本のキモノの晴れ着ほど美しいものはないという編者の意見を生かしたかったのである。この意図は成功した。あでやかな振袖姿は場内に一段と精彩を放ち、夫妻とエリシアちゃんは大喜びして、美しいお嬢さん方から花束を受けた。しばし鳴りやまぬ場内の拍手を背後にして三人がステージの横へ入って来たとき、イングリッド夫人は涙を浮かべて感謝の意をあらわしていた。

講演が予定よりも早く、十二時に終了したために、午後の部は二時開幕を一時に切り上げることにして、一時間の昼食休憩ということになった。夫妻と役員一同は五階の控室へ引き揚げたが、この時間中に午後の部最後の質疑応答にそなえて、来場者から集めた質問票の整理や翻訳をすませておこうということになり、編者とステックリング氏、ビーリーさんの三名は大急ぎでその作業にとりかかった。ずいぶん沢山の質問票を選り分けたあと、ビーリーさんがかたっぱしから内容をステックリング氏に説明して、その回答を翻訳してゆく。大多忙となって、ついにビーリー夫人は昼食をとる余裕がなくなってしまい、実に気の毒だったがこれをやっておいてよかったことはあとでわかった。

夫妻とエリシアちゃんのためには特に洋食弁当が用意されたが、手違いでソースやドレッシングがついておらず、しかも日本式のハシで食事することになったため、エリシアちゃんはほとんど食べることができず、あきらめてしまったらしい。しかしここで全く感心したのは、この幼い淑女は一言も不平を言わず、だまっているだけなのだ。その後も一週間の交際で観察してわかったのは、彼女は両親に対して絶対にわがままを言ったり駄々をこねたりせず、まさに従順そのものの天使のような子であり、明らかに両親の高貴な精神を反映しているということであった。母親のイングリッド夫人は一種の超能力者であるが、このお嬢さんもそのような素質を持っているらしい。母娘とも一種瞑想的に見えるのは、そのせいかもしれない。

午後一時からUFO映画の映写が始まった。16ミリはよかったが、8ミリになると光源が弱いために画面がかなり暗くなって、見づらくなり、お客様方には申し訳なかったのだが、これは致し方のないことで、あらためてお詫びするとともに、ご了解をいただきたいと思う。8ミリフイルムの映写の場合、投影画面の横幅はせいぜい五十センチぐらいが限度で、これならば明るく鮮明な画面が得られるのだが、あのような大会場で大画面にすると無理が生じるのである。

映画に続いてスライド映写が行なわれた。NASAから入手したという月面の不思議な物体やUFOの写っている写真類は素晴らしいもので、必見の資料であった。どうみても月面には異星人の基地があるとしか思えない。

映画とスライドも少し早目に終わったので、あとは質疑応答の時間を予定よりも多くとることができて、むしろ幸いした。否定的な意見や反論などもとり入れてほしいというステックリング氏の要望をくんで、できるだけ公平に質問を選択したつもりだったが、なにぶん数百種類に及ぶ質問事項を大急ぎでより分けたものだから、完ぺきを期することは困難だった。しかし通訳のビーリー夫人はアダムスキー問題に精通しておられる方なので通訳ぶりは立派だったと思う。こうした特殊な問題の通訳は語学力に加えて予備知識がないとだめなのである。その点ビーリー夫人はア氏の原書などをよく勉強しておられた。

総会は編者の挨拶を最後に無事終了した。全く大成功だったと思う。これは熱心な参会者の方々の見事なマナーとご援助、それに役員一同の献身的なご奉仕のたまものであり、あらためて厚く御礼の意を表したい。結局、人間の善意と融和の重要さを腹の底から学ぶことのできた貴重な一日であった。

以下は総会における編者の挨拶、ステックリング氏の講演、イングリッド夫人の挨拶及び質疑応答の再録である（全文掲載）。

ご挨拶

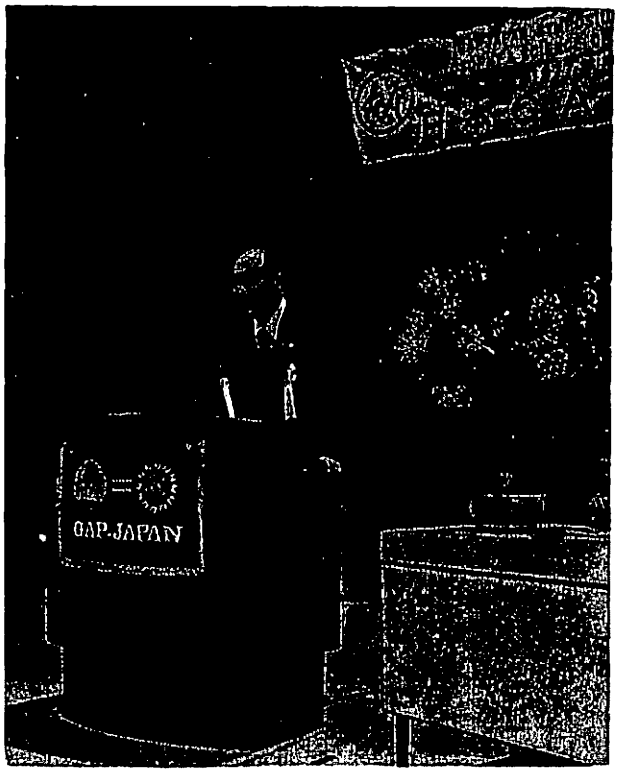
日本GAP主宰　久保田八郎

本日は遠路はるばるご来場頂きまして有難うございました。また平素は多大なご支援にあずかりまして厚く御礼を申し上げる次第でございます。

私が日本GAPというものをジョージ・アダムスキー氏のすすめによって始め

ましたのは昭和三十六年の秋でございますから、今年でちょうど十六年になります。それより以前の昭和二十八年頃からアダムスキー氏と文通を始めまして、かなりの書簡を交わしたり、あるいはアダムスキー氏の著書の翻訳などを出したりしまして、アダムスキー問題の紹介活動は通算すれば二十四年ぐらいになると思います。つまりその頃にお生まれになった方が現在二十四歳ぐらいになっていらっしゃるのではないかと思いますが、しかもその若い方のなかには私よりももっとはるかにすぐれた方がいらっしゃるということは、なにか過去世からのカルマではないかと――、人間の持つ精神的な向上度ですね、これはもう過去世からのカルマではないかと私は思う次第でございます。

それで、とにかく年月の経過の早いのに驚いておりますが、その間、現在に至るまで私自身は別にたいした進歩することもありませんでしたし、これという目覚ましい活動も行なわなかったのでございますが、幸いにも多数の支持者の方から絶大なご援助をたまわりまして今日に至りました。その間、ジョージ・アダムスキー氏が亡くなられたり、いろいろな事がございましたが、今はっきりと判りますことは、現象がどのように変化しましても、宇宙の法則それ自体は決して変わらないということでございます。



●挨拶する久保田主宰者

戦事中、私は陸軍航空隊におりまして終戦の頃は長野県の松本航空隊におりました。私自身は直接飛行機を扱わないで部隊本部付きとして事務関係の仕事をしておりましたが、たまにあの広漠たる飛行場へ出まして片隅を見ますと、非常にきれいな花が咲いているわけです。そして、その後戦争が終わりまして、荒廃した日本の国土のどこへ行きましても、道ばたや野辺にきれいな花が咲いていましたし、現在でもそうであります。

結局、現象がどのように、人間界がどのように変化しても創造主はきれいな花をいつも咲かせておられるという、このひとつの事実を見ましても、宇宙の法則は永遠に変わらないであろうと――。変化しているのは人間のセンスマインドがつくり上げるいろいろな争い、それから多くのトラブルですね、そういうようなものによって出来上がる表面的な社会または社会現象であろうと思います。

自分や周囲の環境がどのように変化しましても、コズミック・コンシャスネス――つまり宇宙の意識、これは普通いうところの心理学的な意識ではありませんのでして、宇宙の創造主というような意味ですが――は、万物の中に宿っておりまして、万物を生かしている、ということを痛感する次第でございます。

こうした哲学を私どもはアダムスキー哲学、または宇宙哲学と呼んでおりました。あらゆる哲学や宗教の説いている真理は結局みな同じなのだろうと思いますけれども、アダムスキー哲学の非常にユニークな点は、地球以外の別な惑星に偉大な人類が住んでいて、それがひそかに地球を観察し援助しているというような宇宙空間にわたる視野の拡大を図ったことと、それから理想主義の規点というものを限定された小さな地球から別な天体にまで延長させたというスケールの雄大な点にあると思います。

つい最近もソ連の物理学者のアレクセイ・ゾロトフという科学者が、一九〇八年の六月三十日にシベリアで発生しましたあの謎の大爆発を、別な天体から来た宇宙船ではないかという説を発表いたしました。この前、日本の新聞に出ましたので皆様方もご存知と思いますが、あれはだいぶ前に私が記事を訳しましたものを、「UFOと宇宙」という雑誌の何号かに載せたことがありますので、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、大体隕石説が強かったんですけれども、こうした説が大国の一流科学者から出るほどに、最近は宇宙問題に関する視野が非常に拡大されております。

こうみますと、この狭い地球上で人間同士が争い合うことが、いかにつまらないことであるかということになりますがしかしそのためにはまず個人が自己の精神的向上を図ることが根本的に重要ではあるまいかと、個人がまず自分を自覚して、それから次第にそれが広がっていって、大きな社会的改革が起こるのであろうと思いまして、ささやかな活動を展開してまいりました次第でございます。

いつも私が例会あるいは総会などで、全く独りでしゃべっているのでございま

すが、私の力は限定されておりますので、もっとはるかに偉大な方がアメリカにいらっしゃいますから、それをお呼びして本日は盛大な会合にしようではないかというわけで、アメリカよりフレッド・ステックリング氏ご夫妻をご招待しまして、講演と映画の上映をお願いすることになった次第でございます。

このための募金運動にご協力下さいました皆様方及び全国の会員の方々に衷心より御礼を申し上げる次第でございます。募金の総額は予想をはるかに超えまして現在までに二百万円を突破しました。このあいだ事務局から聞いたところでは約二百七万円ぐらいになっているということでございました。正確な数字はいずれ機関誌に発表いたしますが、とにかくこれでもってお陰さまでステックリング氏ご夫妻とお嬢さんのエリシアさんの三人をご招待することができたわけでございます。募金の残額はそのまま郵便局に預けておきまして、来年の総会でまた海外より別な方をご招待するための資金に当てたいと考えておりますから、この点ひとつよろしくご了承頂きたいと思います。

フレッド・ステックリング氏につきましてはすでにご承知のことと存じますがドイツのご出身でありまして、二十一歳ぐらいのときにカナダへ移住され、料理の専門家としてのご職業のかたわら、宇宙問題を研究されましたが、特にジョージ・アダムスキーのお弟子さんとして親しく接触された方であります。またスペース・ブラザーズとコンタクトもされまして、宇宙哲学の問題では非常に高度な知識をお持ちであります。また実際にそれを実践しておられまして、奥さんともときどき職場とご家庭のあいだを電話を用いないでテレパシーで交信するというようなことをやっていらっしゃるんだそうです。またアメリカGAP本部の実質的な指導者として、アメリカの西部一帯で講演、テレビ、ラジオ等に出演されまして大活躍を続けていらっしゃいます。

本日そのステックリング氏ご夫妻より親しくお話を聞けることは私どもにとりまして無上の光栄であります。なにせアダムスキー氏が亡くなられる最後まで仕えた方でありますから、直接アダムスキーの言葉をそのままお聞きするのと同じではあるまいかと思います。絶好の機会でもありますから、最後までごゆっくりお聞き下さいますようにお願い申し上げまして、私のご挨拶を終わらせて頂きます。本日は遠路はるばるいらっしゃいまして有難うございました。

〈講演〉

ジョージ・アダムスキーの人柄と哲学

フレッド・ステックリング

（通訳　久保田八郎）

本日皆様方の前に出席できる機会と名誉を与えられましたことを心から喜ぶ次第でございます。また日本への旅行を実現させて下さいました皆様方に厚く御礼を申し上げます。また故ジョージ・アダムスキーの業績や、科学的・哲学的面で私たちに与えてくれた知識、それに彼の人物などについて、今日ここでお話しできることは身にあまる光栄と存じます。

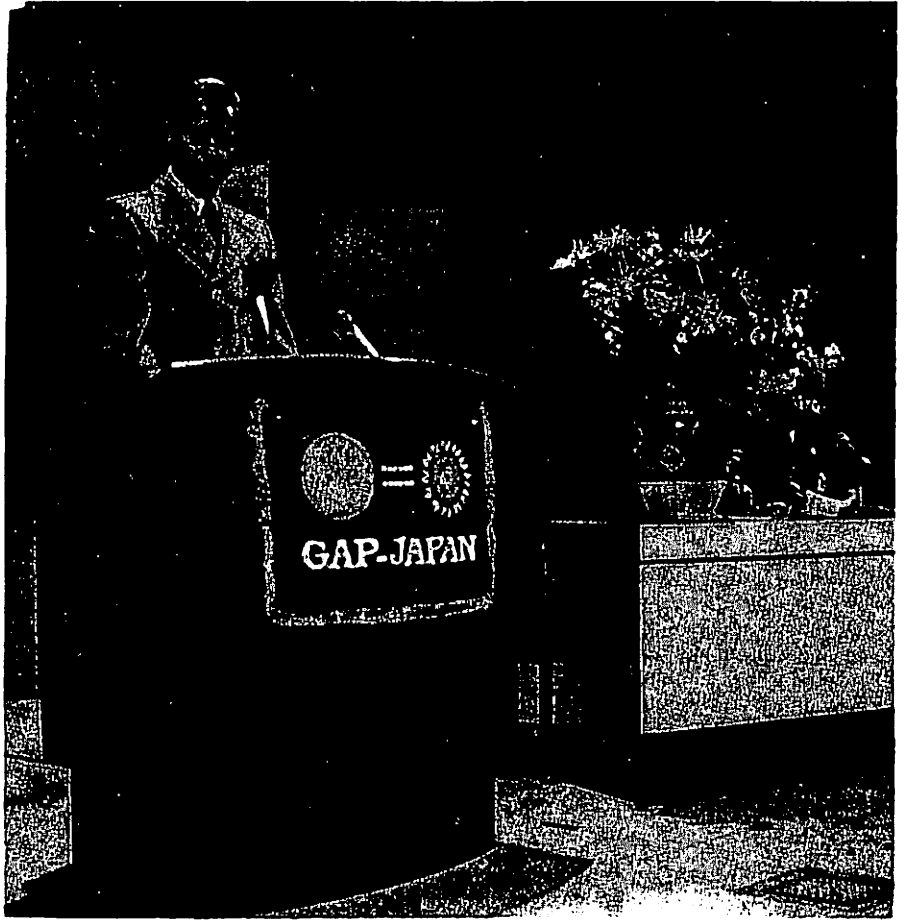
私はアダムスキー氏の最後の数年間を氏と共に働く光栄に浴しました。そして個人的に彼を知るようになりました。彼をよくご存知ないと思われる方々のために申し上げたいのは、彼は大いなる名誉と完全さをそなえた人で、その生涯においてただ一つの目的と欲求を持ち、現代において人類に新しい思想をもたらした人であるということです。この思想はこの世界の人間が大気圏外へ進出して別な惑星へ行くことが可能であるばかりでなく、他の世界の人類が長いあいだ地球へ来ていたという事実を含むものでした。今日、惑星間の知識の交流が行なわれていますが、ただし公然たるものではなく一部の科学界の内部で行なわれているにすぎません。また多くの点で宇宙旅行の科学的角度以上に重要と思われるものはより高次な生命の表現に対する見通しであります。それはあらゆる分野で真実の進歩が達成できるような高次元な生き方であります。

過去において私はジョージ・アダムスキーの宇宙人との体験は超自然的または心霊的なものであり、別な次元で起こったのではないかという一般の考え方に直面してまいりました。このタイプの考え方は心霊や神秘主義グループにつきものの一般化した考え方でありました。ジョージ・アダムスキーがその七十四年の生涯でたたかったグループは、まさにそのようなグループです。なぜなら彼は真実を扱った人であるからです。これは心霊主義グループに対して正反対な態度であります。

しばしば彼が述べたのは、「宇宙人は別な太陽系から来る」と主張するのは容易なことだ、ということです。なぜなら別な太陽系ならばその距離が大変なものであるために、だれも彼を反証できないからです。しかしこれは彼の場合にはあてはまりませんので、彼は自分に伝えられたとおりに語ったのであります。

考えられることは、世の中を改良しようとして何かを世間に与えるということになれば、そのとき、多くの出来事はそれが本当に起こったのか、そしてどのようにして起こったのか、と常に疑われることになるということです。だからジョージ・アダムスキーはいつも発生した事柄をはっきりさせたわけです。なぜなら彼は、ある謎が存在する場合は進歩は起こらないことを知っていたからです。書物を通じて彼は常識と筋道の立った考え方こそ、迷いや混乱を起こさないようにするために最も重要であると強調しました。

また考えられることは、自分自身の基礎を確立することの困難なこの時代で、ジョージ・アダムスキーを知る多くの人は今やこの世の中の圧力に妥協しようと



●講演中のフレッド・ステックリング氏

していますし、真実の物語を変えたり再解釈することによってそれをもっと信じやすいものにしようとしています。これは本来全く不必要なことです。なぜなら真実はそれ自体が防御物であり、いつかあらゆる物が、見ようとするすべての人に対して展開するであろうからです。もう少し詳しく申しますと、新しく解釈し直した人はスペース・ブラザーズから与えられた原理を完全に忘れているように思われるのです。『生命の科学』（アダムスキー著）において四次元について書いてあり、その明確な説明が述べてあります。

人間の心（マインド）の論理的な自然な考え方に対して何が起こったでしょうか？　心（マインド）を持つ人間として私たちは全く不完全です。そこで私たちは完全さを伴わない謎の事物を永続させることを好んでいます。何かを恐れない人間というものはこの世に存在しません。そして恐怖のために、避けられない物事をのがれようという気持ちのために、人間は未来に関して謎と混乱とを促進しています。

みなさん方はお気付きのことと思いますが、この地球上の人間の心に対して与えられる新しい考え方というものは、通常最初は反目（はんもく）され拒絶されます。先にも述べましたように、アダムスキー氏は無数の人に尊敬されましたが、一方、彼に不信の念を抱いて、彼の仕事に対して反対者となった人も無数にいます。私たちはこのことをよく知っています。というのは、むかしあらゆる歴史を通じて新しい考え方というものは大衆や指導者によって常に拒絶されてきたからです。たとえばガリレオが天体を観測してその観測結果を報告したときに難儀な目にあったということを歴史が伝えております。その他にも大勢います。コペルニクスもそうでした。またニコラ・テスラが彼の新しい考え方を洩らしたときもそうだったのですが、これはさほど古いことではありません。人間に何かを考えさせようという多くの新しい考え方は、非常な勢い（いきおい）で人間の心に反応を起こさせます。人間の心を乱すと思われる、そして人間の安定しきった状態を乱すと思われるような思想に対して、反応を起こすのです。ジョージ・アダムスキーは、オープン・マインドをもって聞こうとするこの世界のあらゆる人に新しい思想を植えつけました。彼はこの世界の少なくとも五千万の人に真理をもたらすことに成功しました。そのためにこそ彼は地球へ生まれたのです。

たしかに科学的には過去五十年間に私たちは急速に進歩しましたが、一方、社会的には私たちはまだはるかに遅れていて、おそらく現代こそこのギャップを埋めねばならない緊急の時代であります。さもないと、私たちが築きあげてきた科学の進歩そのものが、あまりにも無知なために知性と慎重さをもって扱うことのできない人間の手によって破壊者となります。今は私たちの文明の歴史における他の時代以上に人間は無数の人に生命を救うか、または同じ力によって文明を絶滅させるかの能力を持っています。

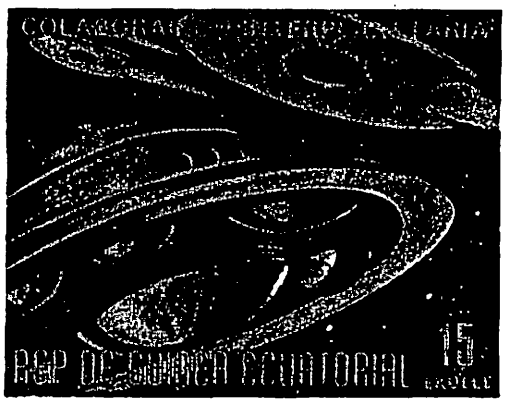
アダムスキー氏のコンタクトに関する限り、みなさん方は彼の体験についてよくご存知のことと思います。みなさん方はアダムスキー氏の計画や世界講演旅行そして多くの国の重要な人々と接触したことなどに関して久保田氏からよく伝えられてきたことと思います。

したがって、ここではその詳細を申し上げる必要はないでしょう。そこで今日はアダムスキー氏が宇宙の人々の援助によって私たちにもたらした本当の生き方を主としてお話ししたいと思います。その前に、近年の新しい進歩について二、三お話ししましょう。これは重要な進歩であるといってよいでしょう。

このあいだアダムスキー氏の業績が、たぶん間接的にではありましょうがアフリカのギニア共和国によって讃（たた）えられました。この新興国は「惑星間の協力」と

題する郵便切手を発行しました。これには大気圏外をモチーフにして三機のUFOが示してあります。中心部にあるUFOの絵は、ジョージ・アダムスキーが一九五二年十二月十三日にカリフォルニア州のパロマー・ガーデンズで撮影した、有名な三個の着陸ギャーのついた円盤そのものです。その絵には丸窓その他が非常に詳細に示されています。みなさん、これはたとえ小さな国であるにしても、これらのUFOが実在するもので、地球へやって来るものであるということを公式に政府が認めたものです。

五カ月ばかり前に私はヨーロッパへ講演旅行に出かけましたが、そのときオランダのアインホッフェンという小さな町へ行きました。驚いたことに、その町には空飛ぶ円盤の形をした建物があるのです。その建物は一九六六年に建てられたもので、その中には地球上で人類がなしとげた科学的発展のあらゆるものが展示してあります。私はこの建物を見学する特権を与えられ、内部を詳細に見て歩くことができました。

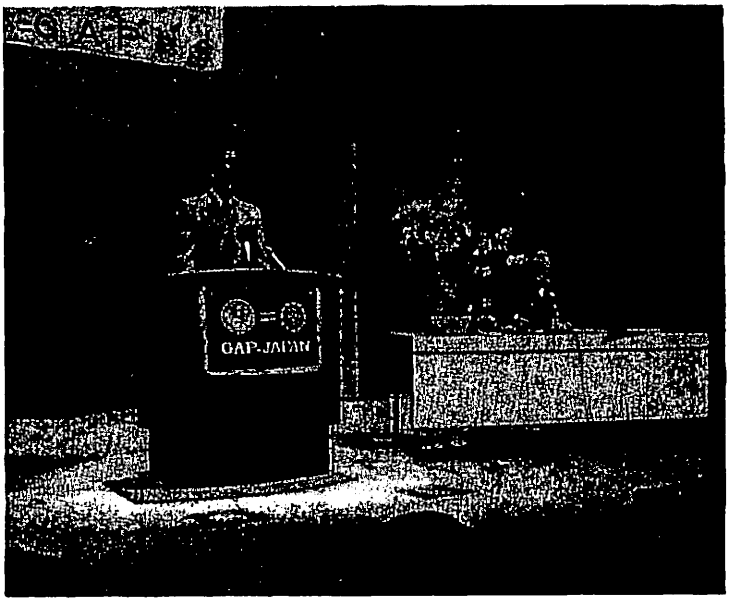


●ギニア共和国発行のアダムスキー記念切手

一つの事が目えます。私がこの建物の中にいて多くの陳列物を注意深く見て、完全な説明を受けておりましたとき、一九五九年にアダムスキー氏がオランダのユリアナ女王と個人的に会談したことを思い出しました。あの当時、女王は彼の業績と、宇宙人の来訪に深い関心を示しました。女王はスペース・プログラムをオランダの国民にもたらすために積極的な援助をしようとアダムスキー氏に約束をしたのです。そこで私は、その建物の中を見て歩いているあいだに、この建物は女王がアダムスキーと会見したあとで女王の管理のもとに建てられたのだという結論に達したのです。これは私自身の結論にすぎませんが、中に陳列してある物を見たあと、たしかに大変な努力がなされたと思いました。多くの陳列物のなかには最新の科学装置がありますが、その多くは宇宙人によって与えられたものです。あらゆる陳列物は電磁気の法則や運動の法則を応用したもので、音響と振動やその働きなどについて完全な説明もあります。この建物はオランダのフィリップス社が建設したものですが、陳列物は科学のあらゆる面を網羅した素晴らしいものです。また陳列物は宇宙の法則を応用したものでもあります。その法則とは各惑星や衛星の運動と、それらが宇宙空間で保たれる原理などです。

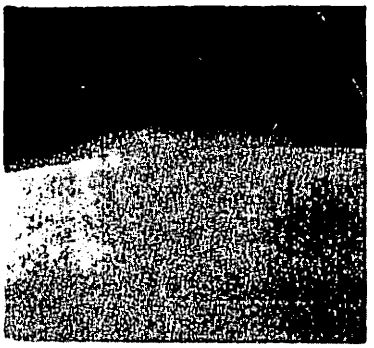
みなさん方はアダムスキー氏の三点の有名な書物『空飛ぶ円盤は着陸した』と『宇宙船の内部』（以上をまとめたものは『宇宙からの訪問者』と題してユニバース出版社より刊行中）、『空飛ぶ円盤の真相』（有信堂高文社より出版）をよくご存知のことと思います。またこれらの書物でアダムスキー氏が大衆に伝えた多くの発見事についてもよくご存知のことと思います。その記事を思い出されますと、彼が一九五四年に月の周囲を飛んだとき、月の上に雲が形成されていることや、大昔の水流の跡、宇宙船の格納庫、植物の痕跡などを見たと述べています。もちろん、いわゆる専門家は当時この主張を嘲笑しましたし、なかには今なお嘲笑している人もあります。しかし、ごく最近、この二年間に私は非常に幸運なことに米航空宇宙局の月面着陸に関する数千枚の写真を入手しました。そしてアダムスキーの主張が正しいという証拠を示す写真類を見つけました。そのなかには地球の大気よりも希薄ではありますが、確実な大気層を示す写真があります。係官のなかには、以前はアダムスキーを疑っていたけれど

「この２年間に私は非常に幸運なことに米航空宇宙局の月面着陸に関する数千枚の写真を入手しました。そしてアダムスキーの主張が正しいという証拠を示す写真類を見つけました」



も、今は、彼が真実を語っていたことに気づいている人もあります。

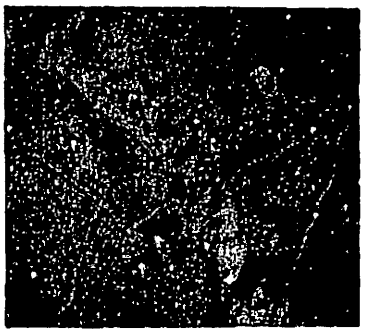
しかし月面に生命が存在するという事実や、月面に別な惑星から来た人々が基地を持っていて、長いあいだ地球や地球人の生き方を調査していたという事実があっても、そのために地球人の生き方や考え方は変わっていません。月面に宇宙人が存在するという事実や、彼らが宇宙船で宇宙を飛んでいて、それは地球人が作ることのできた物よりもはるかにすぐれているとしても、地球人が互いに示し合っている態度が変化することはありません。地球人は彼らの生き方を調べて、それを私たちの日常生活に応用し、私たちが求めている永続的な平和を確立することが賢明だと思われます。私は宇宙人とコンタクトしたと称する人たちのコンタクト事件を調べてきましたが、そのどれも新しい生き方を世界に与えてはいませんし、現代の諸問題に対する解決を与えてはいません。しかし亡きジョージ・アダムスキーは別です。



●月の大気層を示す写真

こんにち地球に存在するいろいろな状態は明白です。分烈、不信、経済問題、宗教上の誤解、寛容さの一般的欠如等で満ちています。あらゆる場所にいるすべての人々は兄弟であり、ただ一つの無限の創造主から出たものであるということは殆ども無視されています。人間は自分自身の道を選ぶ権利を持っており、そのような見方で尊重されねばなりません。

先にも申しましたように、私たちは技術面ではきわめて洗練されています。最近、米航空宇宙局が声明したところによりますと、私たちは今や地球と月のあいだの空間に巨大な宇宙ステーションを建設できるということで、五万人の人がそこに住んで働くことができるということです。このステーションでは食物を作ったりして、地球の生活条件と全く同じものになるだろうということです。またそれによりますと、このような大ステーションを建設するのに必要な原料は、月面で掘り出して、地球の資源をこれ以上消耗するのを防げるということです。これ



●奇妙なって，管状の物が地面から浮き上がその下に影を投げている。

はもちろん、別な惑星の人々が長いあいだやっていることで、そのために彼らが月面にいるわけで、もちろん彼らは地球人を観察し得るという事実もあります。私はこの点をうまく説明するスライドや写真類を多数持っています。

ところで宇宙ステーションの問題に返りますと、重要なのは次のとおりです。

私たちは今それを建設できますが、社会問題の専門家が心配しているのは、五万人もの人がそんな宇宙空間で互いにうまくやってゆけるだろうかということです。というのは技術的には大丈夫ですが人間関係では、倫理道徳の限られた理解力しかなくて、小さな、いわば幽閉された世界で互いに平和に暮らすことができるだろうかと、専門家は非常な疑問を感じているのです。

またごく最近、一ヵ月前にアメリカの科学者が報告したところによりますと、地球の鉱物資源が不足しているために、火星と木星のあいだに存在しているアステロイド帯（小惑星帯）まで行って、数個の大きな惑星をとらえて地球へ持ち帰り、鉄やニッケルのような貴重な鉱物を掘り出すことが考えられているということです。皮肉なことに、これは二百年程前に、もっとオープン・マインドを持った科学者が、火星ですでに行なわれたのではないかと考えた事です。それ以前には全く見られなかった火星の二個の衛星が、望遠鏡を通じて突然現れたのです。そしてその二個は今もなお火星の周囲の軌道を回っています。その二個の衛星が軌道を回る宇宙ステーションとしてばかりでなく、鉱物採取の目的で火星へ持って来られたのではないかと、いろいろ憶測されてきました。一度、中を掘り抜いて圧縮されれば、その小惑星は研究用にうまく役立つかもしれません。

しかしここで重要なことは、私たちもそのような科学的な偉業が可能であり、しかもそれは経済的であるということです。このことは私たち地球人も他の惑星でやっているような段階に科学的に到達しているということがわかります。しかし人道主義的な分野で私たちの理解力はひどく落ちていますので、またも多くの問題や分裂が起こっています。

もう一つの科学的な業績として、地球のロケットが宇宙空間に存在する生きた細胞を発見したことが認められています。一九五〇年代にジョージ・アダムスキーからこの事が伝えられたのに、科学者がやっとその事実を認めたのは一九七〇年代の初頭になってからです。

私たちは微小な有機物が宇宙空間で生きられることを発見しました。各惑星はすごいスピードで太陽のまわりの軌道を回っているあいだに、絶えまなく惑星の微小物質を空間に放っています。地球の航跡は約六十万マイルの長さになると測定されています。この航跡は大気の微小物質と極微の有機物から成り、これが宇宙空間の他の惑星の微小物と混ざり合います。だから私たちはしばしば宇宙空間を創造物の混合鉢、すなわち化学的宇宙と呼ぶわけです。というのは、こうした多数の微小有機物やその他の微粒子は絶えまなく互いに混ざり合っているからで

す。

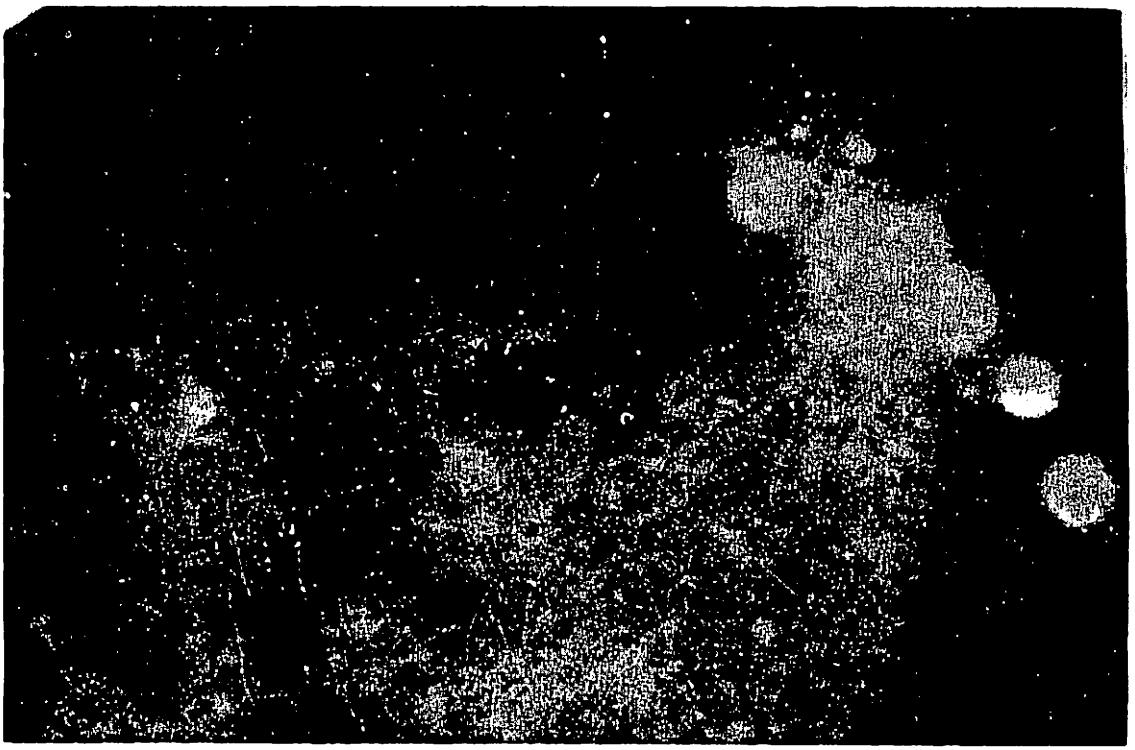
過去十五年間の宇宙開発について、ちょっと振り返ってみましょう。新聞や米航空宇宙局から多くの情報がこの惑星の人々に伝えられて、宇宙空間に生命が発見されたことを示唆しています。それは詳細なものではありませんが、まあ充分なものです。そして、かつて行なわれた宇宙空間に関する憶測に多くの矛盾があったことがわかりました。たとえば宇宙飛行士は月面上に雲を観測したことが認められています。このことは最初に宇宙飛行士のボーマンによって報告されました。また月面に間歇泉が吹き出しているのも発見されたと報告されました。長時間、水が吹き出ていたのです。加うるに彼らは月のまわりに磁場を発見しましたが、これは空気があることを意味しています。

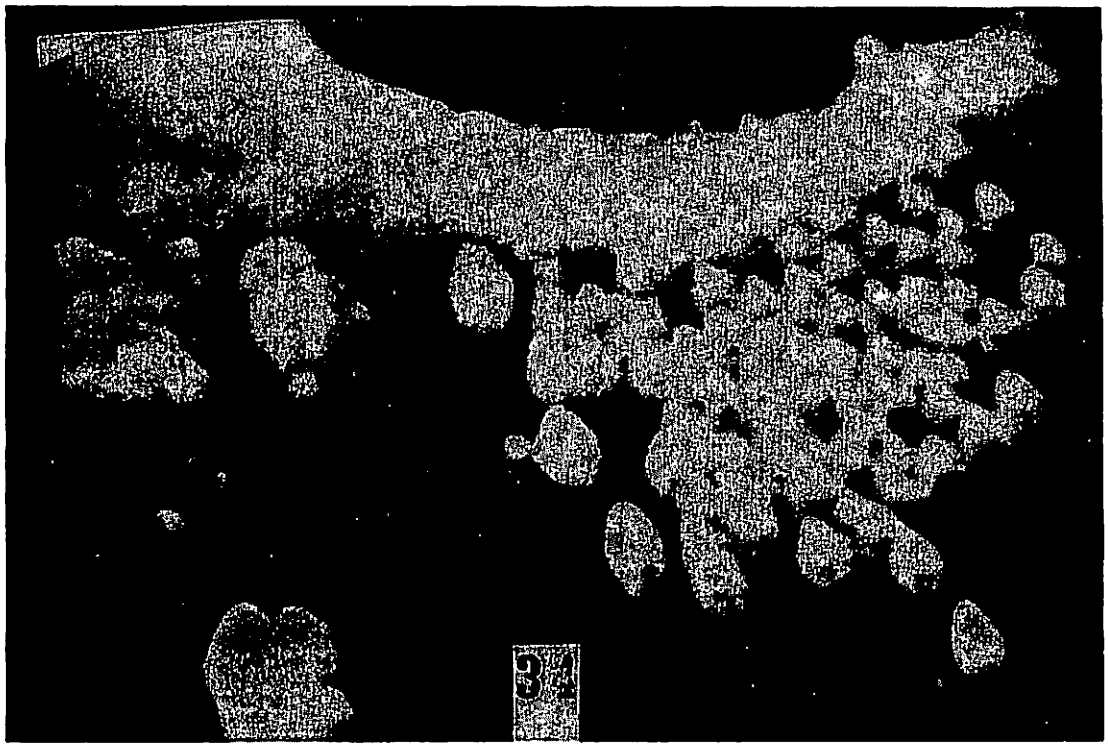
宇宙飛行士のコンラッドとビーンは月面上でメタルキャップのついたフリスビーを飛ばして大変興奮したと報告しております(フリスビーとは円盤型の投擲玩具)。つまり月の空気はフリスビーを飛ばせるほどに充分にあるということです。こうした報告はすべて新聞で報道されました。しかも同じ新聞は月面には生命存在は不可能だとしばしば述べています。しかし新聞はかなりバランスのとれた報道をしています。大衆の無関心と興味の欠乏のために、米航空宇宙局はこうした情報を一般に流さないことをはっきりと決めました。結局、米航空宇宙局は大衆を教育する立場にはありません。真実を追求するのは私たちの責任です。

大学の教授は自分の知識を大衆に伝えるのに一軒一軒歩きまわりませんので、授業に出席して学ぼうという意欲を持たねばならぬのは私たちであるということになります。回答を期待する前に、まず私たちが何かについて質問する必要があります。しかし大衆の関心の欠乏のために、もう権威筋は情報を出しません。もし情報を流せば無関心な大衆に対して知識を押しつけることになります。権威筋は事務所に座りたがって、しかも何かで声明を発表する前に大衆の関心について深く考慮します。大衆が真実を要求しているなら、大衆は受け入れる準備ができているのですが、目下どうやら大衆は準備ができていないようです。これと同じことが長いあいだ混乱してきたUFO問題にもあてはまります。再度申しますと一般大衆はUFO問題に関する真相に対して本当の関心を持っていないのです。ですからおそらく時間と状勢が変化するにつれて、米航空宇宙局はもっと多くの証拠を流すでしょう。

人間の心を注意深く分析しますと、抵抗の習慣が応用され、世界中の人々によってそれが生かされていることを発見するのは困難ではありません。人々は無関心かまたは心が怠惰ですし、きわめて無責任です。大抵の人々は自分自身の幸福と安全にしか関心はありません。一体化した博愛主義のビジョンを持つ人は、現在の地球にはほとんどおりません。この高度な認識力を持つ人のねらいは、それを求めて苦闘している人に援助の手を差しのべて、責任の重要さを教えることに

●月面付近を飛ぶ5機のUFO（アダムスキー撮影）。





●月面に見える雲の群れ（アポロ宇宙船撮影）。

あります。

責任の欠乏の例を一つお話ししましょう。宇宙人の教えによれば、彼らの進歩は自然の法則を研究し生かすことによって達成されたということです。以来長いあいだ彼らは〝至上なる英知〟の法則の導きのもとに自然が働いていることを発見しました。人間が解答を見い出し、自分の知性を発達させるためには、知識の貯蔵庫たる大自然のもとへ帰らねばなりません。自然の法則は決して変化しません。それは常に一定です。

この点をもう少し説明するために、周囲に住んでいる動物を例にあげてみましょう。鳥を調べてみますと、番の季節中には鳥は互いに番で集まり、一緒に巣を作ります。タマゴが生み落とされたあと各鳥は交替でタマゴをあたためて、他の鳥に時折出かけて食物を見つける機会を与えてやります。そして食物を見つけます。この期間中、鳥たちは自分の仕事を離れることは決してしません。出かけて行って他の鳥と一緒に遊ぶようなことはしないのです。自然の法則はそうすることを禁じています。なぜなら自然界は責任をもって小鳥たちの種を永続させるように指導しているからです。タマゴが孵化されると、親鳥はヒナを養うために絶えまなく努力して出かけて行きます。ヒナが完全に成長して飛ぶことを教えられ、自分の食物を取って来ることを教えられると、自由になり、子供と両親とのあいだに束縛はなくなります。そして生活は以前と同じように自由に続けられます。人間が自然の自由な生活、本当の意味での自由な生活を知ることができるのは、動物界のこのような活動を観察してこそ可能になるのです。オスとメスの二羽の小鳥が一番となって生活をするのに教会も結婚式も必要はありません。なぜなら大自然はその小鳥たちのいずれに対しても、生まれながらの責任感を与えているからです。なぜ私たちが多くの物事を自然界から学ばねばならないかという理由はこれでおわかりでしょう。それはこうした法則そのものを洩らしているのは自然界であるからです。私たちはただ心をリラックスさせて、自然の状態になればよいのです。

宇宙人がやって来たのは、人間こそ宇宙で知性を持つものとして最高の創造物であり、仲間の人間は別として、あらゆる生き物に対して主権を与えられているということを気付かせるためです。自然界の万物は一周期を完成するため、そして人間に奉仕してその必要物を供給するために存在しています。なぜなら人間は自分の周囲の生活が充実していることを理解する潜在能力を持つ一つの創造物であるからです。地球上の人々はたいそう長い年月を通じて眠った状態にあり、個人の意識として自分の内部に深く宿っている、その潜在能力を持ち運んでいることに気づいておりません。

それで宇宙人が来るのは、科学と社会とを結びつける方法と、地球人に対し、自分の内部の潜在能力に眼覚めさせる方法を伝えることにありました。たとえばなぜ鳥のような動物は一ヵ所から別な場所へ一万マイルも空中を飛んで、緯度な

どを知らないで小さな島を発見することができるのでしょうか？　クジラはコンパスを用いないでどのようにして数千マイルも移住できるのでしょうか？　船に乗っている人間たちが事故の発生を感じる前に、ネズミはどのようにして沈む運命にある船から出て行くのでしょう？　こうしたフィーリング、自然の本能は、人間も持っているのであり、しかも人間の場合はもっと強力で高度なものであるはずです。

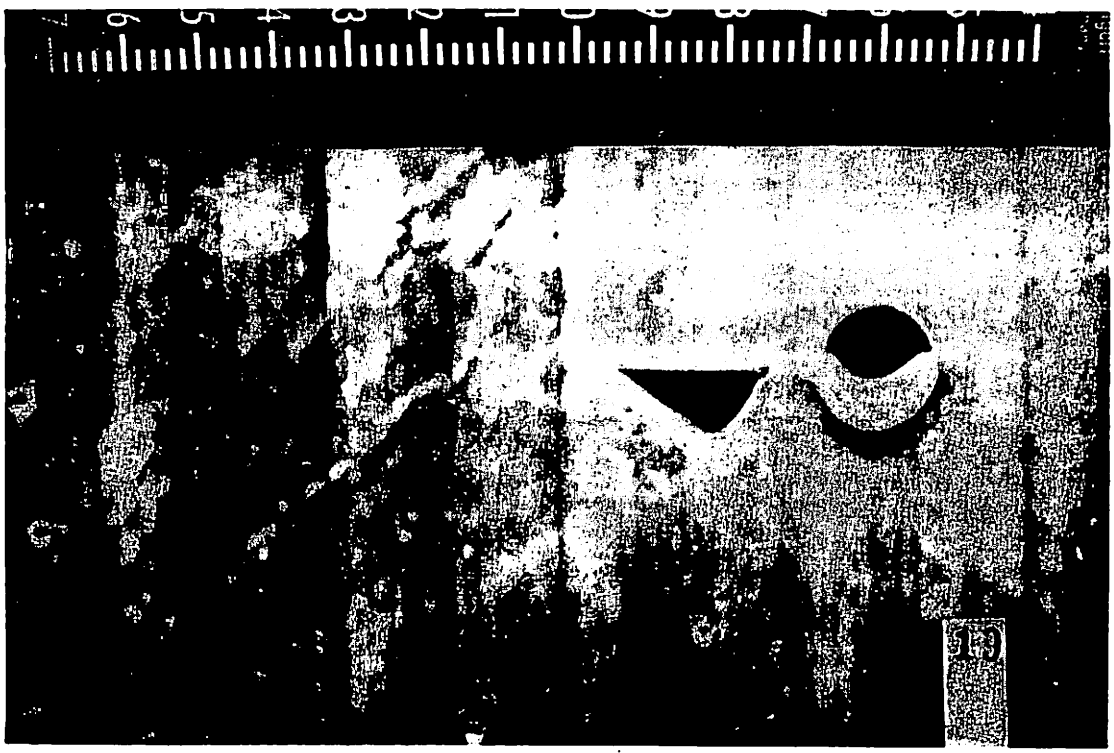
このパワーすなわち本能は宇宙の意識にほかなりません。私たちがこのことに気付いて自分の心を意識からやって来るフィーリングや印象にまかせるならば、私たちは本当の自然の潜在能力を応用できるようになります。人間は自分の周囲のあらゆるものを理解する能力が与えられており、それゆえに人間の潜在能力は他のあらゆる生き物よりも大きいはずです。このことが、つまりこれを気付かせることが、宇宙船のやって来る本当の差しせまった理由であります。これこそ他の何物より以上に人類が必要とするものです。宇宙からやって来る私たちの友は地球の上空で空中サーカスを演じているのではありませんし、宇宙人たちの宇宙船を見たり写真を撮ったりしなければ、それを信ずるわけにはゆかないなどと、わがままを言っている少数の人を満足させようとしているのでもありません。彼らが地球へ来るのは、私たち人間が実際には何であるかを気付かせるために来るのです。結果であるところの心だけで生きるかわりに、因の法則である意識によって生きることの重要さを私たちに認識させるために来るのです。

万物は私たちが利用するために存在しますが、しかし私たちは生命の永遠の法則を尊重することをまず学ぶ必要があります。私たちは他の如何なる物に対するのと同じ尊敬感を持つ前に、自分自身を尊敬する必要があります。私たちはこの考え方を起こしてそれを他人に伝えねばなりません。そのときこそ、こんにちアンバランスになっているいろいろな状態が変化することになります。それをなすのは私たちにかかっています。私たちは絶えず生命を知覚して正しく歩くことを学ばねばなりません。

みなさん、だれがイエスやブッダやマホメッドを信じようと、あれこれの宗教を信じようと、それは問題ではありません。次のような事実に変わりはないのです。すなわち、私たちはすべて人間という家族の兄弟姉妹なのです。こんにち、この惑星上に住んでいる数十億の人のなかには、心が異なる段階に発達した人が数十億いるわけです。社会的に真の発達が起こるのは、あらゆる段階に対する寛容と理解を通じてです。この惑星には同じようなさまざまの心が存在しますが、これは他の惑星にも存在します。そのなかには、人間を分裂させようとして心を応用するよりも、むしろすべてのものの改善を求めて心をリファインさせることを学んだ人もあります。

アダムスキー氏は、人間とはピアノの鍵盤のようなものだとしばしば言いました。ピアノが正しく演奏されれば美しい

●月面裏側の奇妙な三角形の穴。人工ダムか？



メロディーが流れ出ます。私たちがこの地球上をいわゆる〝地獄〟にしているのは、現在私たちが自分自身を充分に理解していないからです。こんにちこの世界の人間の心は心配、緊張、恐怖、欲望、好き嫌い、差別、意見などに満ちています。そのすべては人間が個人の意志だけで生きることによって、長い時代を通じて形成してきたものです。

心を持つ人間がそれ自体で平和に生きられるための唯一の方法は、自分の内部をみつめて万物の創造主を発見することにあります。この宇宙の意識は基本的な創造力です。それは人間の創造以前に存在したもので、人間の心がなくなって個性が消滅した後も長く存在します。心はこの至上なる英知の増幅器または解釈者であるように意図されたもので、宇宙の働きには関係のない、個人的な〝法則〟の創造者として意図されたものではありません。私たちが本当に自分自身を知るようになる前に、まずこの英知に従うならば、「自分自身を知れ、そうすればすべてがわかるだろう」ということになります。

一例をあげますと、私たちが食事をするとき、肉体内部で何が発生しているかを知りません。このことは〝自然〟にまかせてあります。肉体のどこかで消化作用が起こっています。傷は治り、再生作用が起こります。しかも私たちの心が自分自身の基準によって最も洗練された巨人になったとしても、肉体の機能を完璧に理解し得る心というものは現在の世界には存在しません。再度申しますと、この英知は秩序を保つ責任者であり、実際に肉体を維持しています。そして惑星、太陽、太陽系などを創り上げている責任者はこの同じ英知なのです。

私たちは自分を思考力と理解をもって生じさせた〝源泉〟に結局は帰らねばなりません。なぜなら人間は活動する想念であるからで、私たちが何を考えようとも、常に自分というものが存在するからです。私たちが今やらねばならぬ事は、バランスのとれた習慣的想念を持つことで、それに基づいて行動することです。私たちが今存在しているとき、私たちは一極端から他の極端へ揺れ動きます。

私たちの指導の仕方に対社会的欠点があるからといって罪をきせようとする人が沢山います。しかし責任はその人たち自身にも私たち自身の手にもかかっているのではないでしょうか。私たちはだれかを指導者にして事務所の中に座らせたりしますが、その指導者もどこにもいる人々と大差はなく、一般大衆と同様に恐怖と欠点に従っています。

したがって良き世界を作り始めるための良き場所は――それは私たちによってなされねばならないのですが――自分の家庭であり、次に友人との関係であり、そして次第にこのことが沢山の人によって広がることにあります。そうなると、私たちは必ず変化を持つようになるでしょう。私たちがフィーリングによって生きるように立ち返るならば、たとえば同胞愛と尊敬に対する本能的なものが内部からわき起こってきます。あらゆる秘密は取り除かれ、無知は消えるでしょう。分裂、誤解、狭量さはなくなるでしょう。私たちすべては同じ生命の海の中にいることにひとたび気づくならば、過去の偉大な指導者たちが次のように言った言葉の意味が理解できるでしょう。「もしあなたが一人の人間を傷つけるならば、私をも傷つけることになる。なぜなら、私たちはみな一体であるからだ」と。私たち人間は大きさや皮膚の色の異なる体を持っていますし、国籍も異なります。しかし意識というものは色を持ちませんし国籍も持ちません。意識は宇宙の英知です。私たちは太陽の放射線と同様に、みなその英知から出た子供です。

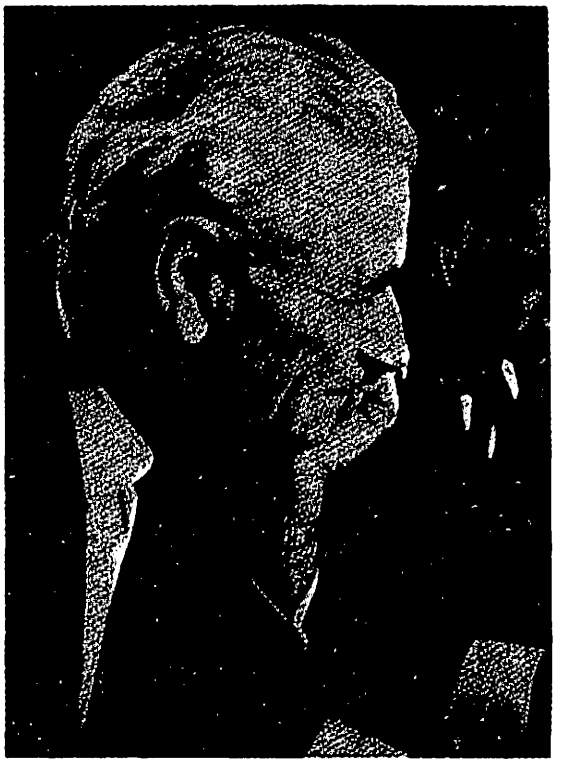
この世界の指導者たちや一般人によって見られねばならないのはまさにこの事実です。不幸にして、こんにちの宗教団体は指導者がもたらした実際の教えそのもので人々を啓発するかわりに、出現したいろいろな指導者に対する個人的崇拝を教え込むことに終始しています。宗教上の儀式が人間を創造主に近づけるのではなく、永遠の法則に対する個人の心、肉体、魂の発達が近づけるのです。

したがって宇宙人が地球へ来たのは、他の何よりもこの個人性を教えるためです。彼らは国家というものは一夜にして変化するものではないことを知っています。なぜなら長いあいだこの世界で広がってきたもろもろの状態は一夜で変化しないからです。しかし彼らは、地球人と個人的にコンタクトしたり、地球人のあいだで生活したり、平和と理解の新しい思想を地球人にもたらしたりすることによって、結局は耳を傾けて自分の心を、より高度な生き方の方へ向けようとする人が出てくるだろうということを知っています。そうした人々が生活の手本になるならば、他の多くの人々へ広がりゆく新しいプログラムを私たちは持つことになるでしょう。なぜならトラブルを起こすのは、人間の持つ宗教的信念ではなくむしろそれを本当に生かさないことによるからです。私たちが今まで学んできた事柄を応用しさえすれば、その報いを得ることを望めるようになるでしょう。

私はジョージ・アダムスキーが他界する前に私たち夫婦に与えてくれた最後の教えの一つを決して忘れません。彼は私たち夫婦に次のように言いました。

「宇宙の人々や私の仕事に対して新しい宗教ができないようにあらゆる努力をしなさい。私たちは人間を通じて現れている唯一の宇宙の英知の召使いにほかならないからです」

アダムスキー氏も宇宙の訪問者たちも自分の仕事を名誉づけられようとして出現したのではありません。その仕事をやったのは彼らを通じて現れる英知であるということを彼らは知っていたのです。彼らはその業績をあげ得るように特権を与えられたにすぎません。何かが真実であるかないかを決めようとするのなら、その行為または作り出されたものを見ればよいと言われています。アダムスキー氏が宇宙人からもたらした教えを見て、それを自然界で見られる生命の法則と比較してみますと、その教えが確かに完全な真理であることがわかります。みなさん方もご自身の内部に働いているこの法



●ありし日のジョージ・アダムスキー

則を見ることができます。宇宙の人々は私たちに対して深い感覚を持っており、一、二の惑星の住民のあいだに差別を設けるようなことをしません。彼らは宇宙の法則の理解において、私たちがまだ幼児であることを知っています。

私たちは特に誠実さと、生命と自分の周囲の他人に対する関心を発達させねばなりません。なぜなら他人も隣人であり兄弟であるからです。

こんにち、この競争の激しい世の中で私たちはこうした原理を大きく無視しています。私たちは多くのさまざまの宗教団体に属して、特定の日に一緒に礼拝したりするとしても、それ以外の日には競争している同じ兄弟そのものに反抗して闘ったりし、自分が成功するために相手を押しのけようとします。しかるに礼拝の日になりますと、みんなは唯一の同じ神に祈りを捧げて自分の努力の祝福を乞います。私たちは自分の望む変化を起こそうと思うのなら、もうこのような生き方をしてはなりません。私たちは寛容をもって生きることを知り、必要とする場合は援助の手を差しのべる必要があります。

ひとたび私たちがこの種の考え方と行動を起こし、生命に対する真実の尊重感を発達させるならば、本当の幸福の意味を理解するでしょう。私たちがこんにち得ている幸福は、束の間の努力で築かれたもので、明日は消えてしまうのです。他の惑星の人々は自分の内部のフィーリングに従うことに専念しています。私たちも結局はそうする必要があります。彼らにとってはそうすることがもっと大きな生き方になっているのです。

私はより良き世界を作り始めるために一言申したいと思います。私たちは自分の子供に対して生命を尊重することを教えるべきであって、興味や利益のために生命を殺してはならないということを教えるべきであります。想念の分野で殺すことを〝遊び〟にするだけでも、若い感受性の強い人の心にとってはきわめて破壊的です。私たちは自分の肉体がどんなに素晴らしい装置であるかということやまたその肉体に対する気の使い方を子供たちに気付かせる必要があります。子供たちは、同胞を殺してそのために誤った信念が正当化されるような欲求を決して持つはずはありません。

私たちが神のようであろうと思えば、創造の原理を現しながら、楽しく自由に行動しなければなりません。こうしたことを子供の心に吹き込むことができれば私たちは明日、更に良き世界の基礎を築くことになるでしょう。

生活において真実なるものを見い出そうとすれば、私たちは、自分自身を見つめることによって出発する必要があります。私たちはどのように生きたいと願っているのでしょうか？　私たちは他人からどのように扱われたいのでしょうか？私たちがこの種の回答を得るならば、そのとき他人を理解するでしょう。なぜなら他人も私たちと同じ見方をしているからです。他の惑星の人々は、この進歩した考え方が彼らにとってきわめて有益であることを知っていますし、私たちがそれを応用するならば、私たちにも有益であることを知っています。他の惑星の人々が若く健康な肉体を維持することができるのは、こうした原理の応用によるのです。このことはまた彼らの年齢が私たちとは異なる様相を呈していて、伝えられるように彼らが非常な長寿を保つ理由です。

一九七七年八月十三日にロサンジェルス・タイムズに掲載されたある記事の中に、モスコウ人類発生学研究所のソ連人科学者団が人間は四百年もしくはそれ以上生きられるということを証明して発表しました。これを言い替えれば、私たちも他の惑星の人類と同じほどに長生きできるということになります。当然のことながら、そうするためには私たちの生活習慣の調整が基本的に重要になると彼らは言っています。しかも人間は四百年間も今日あるような多くの悲惨な状態を体験したくはありません。そしてこんな長い期間を生きてゆこうとするのならば新しい平等の概念も必要となるでしょう。したがって、またもそれは今存在していない高度な社会水準に返ることを意味します。

一人間が生涯のあいだにいわゆる普通の労働をやろうが、高く評価される科学者または医師になろうが、それは問題ではありません。なぜならあらゆる生命はこの至上なる英知からの贈り物であり、結局、あらゆる仕事はこの社会の全機能に対して必要なのです。このことはまさに他の惑星上で応用されている平等の法

則そのものであり、私たちがこの原理の重要さを理解しさえすれば、私たちも別な惑星の人々がやっているのと同じタイプの生活をすごすようになるでしょう。こんにち、多くの人に不潔な非人道的な状態で生きさせて、一方では他の人たちが名誉を受けて崇拝されるのは、貧富の差をともなった階級制度です。私たちはみなより良き生き方を望んでおり、みんなが高度な惑星へ行きたがり、美と平和のなかに生きたがっていますが、しかしどれだけ多くの人がそのような環境を作りたがっているでしょうか。地球人はむしろそんな努力をしなくてもあらゆる仕事が行なわれるような場所へ行きたいのです。

しかし実際には、私たちがより良き物事に自分を合わせることができなければ他の高度な惑星上の生命がはなはだしく不愉快なものに見えるでしょう。しかし私たちは終局的には変化しなければなりません。万物は更に良き物事にとってかわるために消滅し、それにより自然は前進するからです。人間はその良き物をもって前進するか、または永遠という車輪によって粉々にされてしまうかのいずれかになるでしょう。

あらゆる文化と社会において、私たちは〝父〟と〝母〟を尊敬すべきであると教えられてきました。しかしそれは実際には何を意味するでしょうか。

つまり〝父〟とは〝宇宙の英知〟なのであり、〝母〟とは自然界すなわち〝母なる大地〟です。その大地は私たちに生きるべき、そして維持するべき肉体を与えてくれました。大地は必要品を配給してくれますし、肉体を養い、快適な生活に必要なあらゆる物資を供給してくれます。

こうした原理を生かすためのアウトラインはきわめて簡単です。私たちは如何なる団体にも加わる必要はありませんし新しい団体を作る必要もありません。ただ自分自身を観察すればよいのです。私たちが行動するときや行動する前でもそうです。そのとき私たちは無考えに行なったかもしれない物事を残念がる必要はありません。残念がることは、ある行為またはその行為によって引き起こされたかもしれない結果を消すことにはならないのです。

常に心にとどめねばならぬのは、あらゆる行為は反応を引き起こすということです。私たちが動かす物事は、何かがそれを変化させようとしない限り、運動を続けます。宇宙の万物はそれ自体の秩序を持っています。この秩序を理解しない人間の心は、信念――しばしば盲目的な信念――に基づいて働く必要があるのです。本当の信念は原因と結果の知識を持ち、それを活動させるからです。宇宙の法則はいずこでも同じで、その応用の仕方は環境や状況により少し変わるかもしれませんが、法則は依然として同じまま続きます。生か死の海に加わるのは地球の人類なのであり、そのどちらか一方しかないとすれば、選択は人間にあります。私たちにはこれ以上暗黒の中を歩きまわる余裕はないのです。

私たちは論理的な考え方を知り、今日一日、良き物事を求めて生きる必要があります。決して来ないかもしれない明日までそれを伸ばしてはなりません。宇宙には常に存在する〝現在〟というものがあります。ですから私たちは〝今〟こそ〝至上なる英知〟の似姿になろうではありませんか。これこそ人間がみな求めている永遠を発見するための唯一の方法です。

最後にもう一言お話ししたいと思います。それは、信ずるに価する場合は信じてやるべきだということです。また次のようにお伝えしましょう。たとえ私たちは宇宙問題に関して多くの誤った情報やでたらめな話を聞かされても、文明人たる私たちは宇宙開発によって莫大な知識を得てきたということです。私たちは観測と写真撮影により、宇宙空間から地球に関して多くの事柄を知っています。このことは一般大衆によって現在認められています。私たちは今後長いあいだこの宇宙開発の利益を感じるでしょう。軌道にのせられた人工衛星は、地球上の多くの諸問題を知らせてきました。私たちは気象、海洋、その他地球上の多くの地域の鉱物資源などについて知ってまいりました。また進歩した大洪水防止施設、森林管理、未開拓地域をも含めて高度な農業生産地域などを開発しております。

私たちにとってはこの先の問題ですが地球上の人類の未来は大気圏外と、大気圏外より得られる物とにかかっております。いつか人類は大気圏外へ進出して、現在〝ホーム〟と呼んでいるこの小さな惑星を振り返って見るでしょう。そしてそれが何で出来ているのか、どのように扱えばよいかを知るでしょう。その地球が崩壊しそうになれば、人類は宇宙空間へ飛び出て、居住のための新しい世界を求めるようになるでしょう。

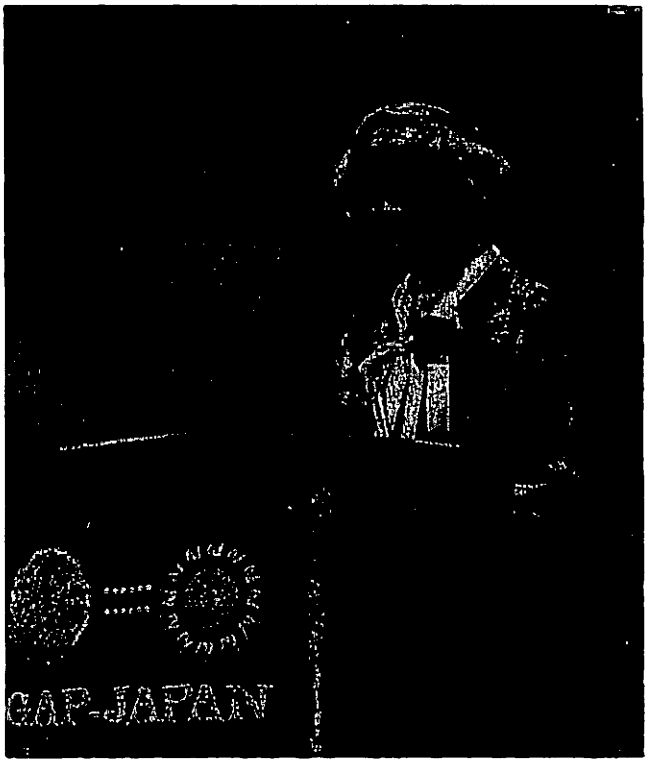
スペース・プログラムが続けられて発展すれば、それは戦争やその他の悲惨事を進歩に代えながら、経済のバランスをとる唯一の方法を提供することになります。そうです、私たちは自分自身を地球上で最も知的な生物と称しています。私たちは生き残るためにまもなくそれを証明しなければならないでしょう。どうも有難うございました。

日本GAPの皆様へ

＜挨拶＞

お集まりの皆様、そして久保田氏。主人がすでに申し上げましたように、ここにより親しく皆様にお会いできる機会を持てましたことは、本当に得がたい喜びです。ご来場の皆様方のなかには、アメリカで私たちをお訪ねの際にお目にかかった方もいらっしゃいます。またここで『こんにちは』と言わせて下さい。久保田氏がアメリカへ、そしてビスタへいらした折に、皆様についてお話しして下さ

イングリッド・ステックリング
（通訳　セイコ・ビーリー）



●挨拶をするイングリッド・ステックリング夫人

ったり、スペース・プログラムに対する、そして他の惑星の方々が私たちの惑星の改善と平和のためにもたらしてくれた生活法、ちょうど彼らがすでになしとげた生活法についての皆様の誠実な望みと関心についてもお話し下さいました。

主人がすでに申し述べましたことに次のことだけをつけ加えたいと思います。

宇宙からの訪問者たちがここに（地球に）来るのは、人々の心に恐れや混乱を植えつけるためではなく、何百年ものあいだ私たちの惑星を観察することによって得た知識や経験を私たちに提供するためなのです。

過去、そして現代でも何度となく行なわれているように、彼らの来訪は私たちの知識をより豊富にするためだけのものなのです。

皆様、この知識を実践に移すことが私たちの使命です。何でもやってみなければ出来るかどうかわかりません。毎日の生活で多くの問題をかかえても生きてゆけるのでしたら、どうしてもっと安心した、くつろいだ生活ができないことがありましょう。最善のものを作り出すために、ともに務めること、しかしもう少しのんびりと、ということです。

私事ですが、私たちは私たちの子供、グレンとエリシアを育て、生命を尊ぶこの生活法を教えてきました。今まで何度も、そしてつい最近ある教師にも聞かれたことですが――もっともこの人はこの生活法が良いものだと認めてはいましたけれども――、この生活法が私たちの伝統的な暮らし方に問題を引き起こしてきはしなかったかということです。

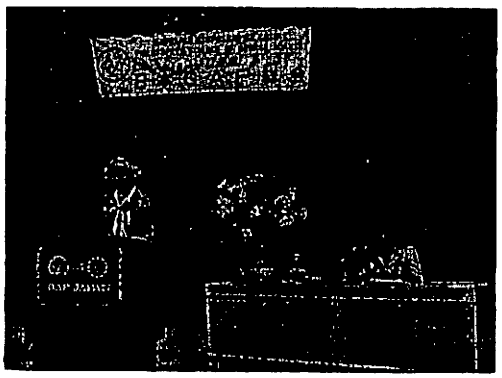
ですが私の答はノウです。実際のところ、この生活法は、人生には私たちが慣れ親しんできたこと以上に、もっと何か意味があるのだという真の認識をもたらしたのです。人生は肌の色や人種、老いや若きに限らず、すべての人々のためのものです。事実、子供たちは幼いときには純なもの、優しさ、正直さに対する感覚を持っているものです。必要なのは、導いてあげるということです。彼らは自然さというものを持っていますが、それはもちろん私たちも心がけるべきものです。私たちがしなければいけないことは子供たちの自然さを守り、責任というものを示し与えるため、正しい方向に導いてやることです。

生活の法則は単純なものであり、私たちが今ここで出来ないことは何もありません。実践に移すことが出来ないほど理想的なことは何もありません。

宇宙からの訪問者たちはそのように行ない、私たちは同じ法則に従うだけなのです。真の生活というものは非常に現実的で、私たちの学習の各段階を経て、少しずつより良いものに近づいてゆくわけです。私たちはみな行く手に大きな仕事を持っています。そしてこの世界に平和と兄弟愛をもたらしたいと望むなら、今日始めなければいけません。悩みの心があるところはいつでも優しさでそれをうずめましょう。非難には寛容で、そして混乱には理解をもって、広げた手と心を伸ばしましょう。これらの考えを心にいだいていたら、私たちすべてが支えている重荷を軽くしてくれるはずです。

最後にこの事を言いたいと思います。ほかの惑星の方々は私たちに友愛の助力の手を差しのべてくれています。お返しに私たちは友情と、そして今日ここで皆様にお会い出来る機会を与えて下さったことに感謝して皆様に手を差しのべたいと思います。

大変有難うございました。皆様、どうぞお元気で。



質疑応答

回答　フレッド・ステックリング
（通訳　セイコ・ビーリー）

問　フレッド・ステックリング氏はアダムスキー氏と知り合って宇宙人とコンタクトするまでになられたのですが、前生でアダムスキー氏と知り合いであったと思いませんか。また久保田先生とは知り合いであったと思いますか。

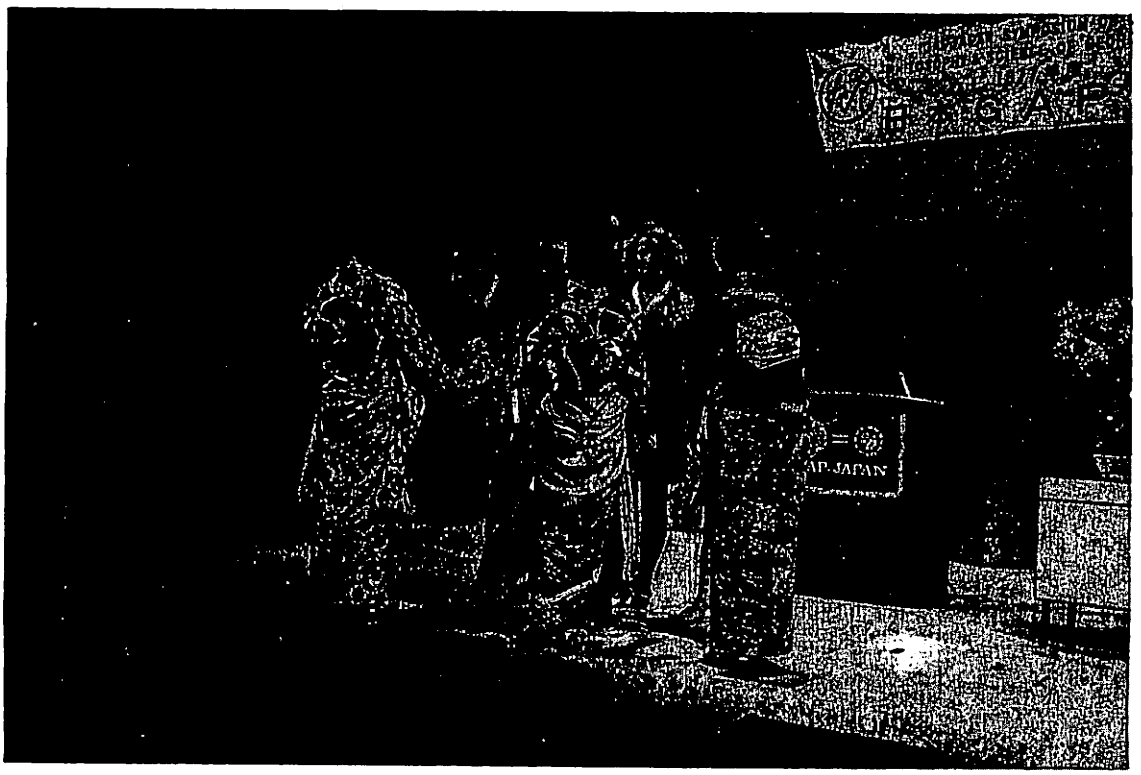
答　私は何回かの過去世でアダムスキー氏と知り合いでした。また久保田氏とも過去世で知り合いでした。いつ、どこでということは憶えておりませんが、それは確かです。

問　アダムスキー氏の死去後、スペース・プログラムはどのようにすすめられているか、ご教示下さい。

答　このプログラムはカリフォルニアのビスタにあるGAP本部で行なわれておりまして、同時にアメリカの各地やヨーロッパ、そして日本、世界各地においても個人の方々や協力者たちが行なっています。久保田氏は日本におけるGAPを

●エリシアちゃんとともに。

●花束を受けるステックリング氏一家。



代表する唯一の方です。

問　金星人や火星人たちは別な太陽系に移転してしまったのではないかと、どこかで聞いたことがありますが、あなたはそのことについて何か情報を得たならばぜひ教えて下さい。

答　スペース・ピープルは科学上の目的のために継続的に宇宙空間を旅行しておりますが、その旅行中に近くに居住可能な他の太陽系を発見してきました。これらの惑星は、私たちの惑星がずっと昔に植民地化されたようにボランティア（志願者）によって植民地化されています。

問　アダムスキーは宗教団体と宇宙人問題は関係がないと述べていますが、特定の宗教団体をスペース・ブラザーズが援助しているということは、アダムスキー亡き後もありませんか。

答　ありません。地球上の宗教団体はそれぞれ自分たちのグループが他の団体よりも良いと思っています。唯一の宗教団体のみがスペース・ピープルによって支配されているわけではありません。スペース・ピープルは、神はただ一つであり、沢山あるというようなものではないと言っています。彼らはいかなる宗派も支持しておりません。

問　現在、スペース・ブラザーズはどのような活動をしているのでしょうか。

答　彼らは地球上における科学や社会学の分野で、多くの国々とともに働いております。

問　アダムスキー氏は一九六三年五月、デンマークにおける講演会で「金星人も肉を食べるということですが、これについてはどうですか」という問に対して、「肉は必要です。草食動物の肉だけなら食べてもよいという原理にもとづいて食べるのです」と答えています。なぜ肉食動物の肉を食べるのはよくないのですか。また肉食動物の肉を食べることは、テレパシー能力の開発に影響しますか。

答　今お聞きした質問とは少し違っていますが、一応お答えします。スペース・ピープルは肉より野菜が好きで、野菜からとられる蛋白質も沢山とり入れます。肉は一週間に一、二回食べる程度ですが彼らが地球にいるときは私たちと同じように沢山食べ物を食べます。肉を食べることによってテレパシー能力が減退することについては、これは全然関係ありません。人間は自分の肉体の主であるべきで、肉体が人間の主ではありません。肉食動物の肉を食べてはいけないという点については、はっきりとはわかりませんが、草食動物の肉を食べるのが習慣だったのではないでしょうか。

問　もし地球上の科学者が、重力の秘密を知ったとき、彼はすぐ人々にそれを伝えるべきか否か、これについては？

答　ノウです。初めに、主に軍隊が科学者の発見などを利用するでしょう。これは経済社会における経済的な革命を阻止するためで、同時に、軍にもっと力と柔軟性をもたせるためのものです。現在、スペース・ピープルが持っているような物と同じ程度の機械を発達させて持っている国がいくつかありますが、これは私の思うところでは、一九六四年から始まり、なしとげられたことと思います。これらの宇宙船で宇宙旅行が可能かどうかは私にはわかりません。

問　生命すなわち植物、動物、人間の生命は、条件がととのうと自然に発生してくるのではないでしょうか。ダーウィンやオパーリンの説は正しいでしょうか。

答　いいえ、ダーウィンは間違っていました。人間は地球上で発達したのではなくて、ずっと昔、スペース・カーによって地球へ連れて来られたのです。ときどき攻撃的または破壊的な人間がいたとすると、その人は原始人間の状態にまで落ち込んでゆきました。

問　最近スペース・ブラザーズと会ったことがありますか。

答　一年前に会いました。

問　つい最近、一九七七年のニューヨークの大停電は地球人をテストするためにブラザーズが起こしたのですか。

答　わかりません。

問　新約聖書のマタイ伝第二十四章、ルコ伝第十三章、ルカ伝第十七章、ヨハネ黙示録第十八章には、核戦争や地軸の傾斜が起きるとき、イエスが雲に乗って来て、屋外にいる人たちは取り去られるとの予言が記入されていますが、それは円盤の磁気エレベーターで救出されることを意味するのですか。またその時期はいつですか。

答　スペース・ピープルは私たちが自分で脱出できるように助力を続けてきました。このような大惨事の場合は、宇宙船の中に足を踏み入れることを恐れないような人々を助けに来てくれるかもしれません。その判断は私たち自身にかかっておりまして、もし私たちがこのような事態で自分の所有物をあとに残して、それでも行くような意志があれば、です。その時期については、私は予言者ではありませんので、知りません。

ここで一言お話ししたいのは、私たちが知らないだけではなく、スペース・ピープルもその時期を知らない、ということです。惑星間の動きみたいなものはあまりに大きすぎて、スペース・ピープルにもわからないのです。

問　数年内に日本は沈没するという意見が有力筋から述べられていますが、これについて貴殿の意見をお聞かせ下さい。

答　沈没するとは思いません。

問　現在もブラザーズにお会いになったりアドバイスをお受けになったりしていらっしゃるのですか。

答　ひんぱんには会いません。彼らは沢山の情報を私たちが実践に移すように与えてくれましたし、その実践をすることが先決だと思います。

問　アメリカ、アリゾナのUFO研究グループ、GSWのリーダー、スポールディング氏をはじめとする米科学者一団はNASAの宇宙工学の電子技術を用いてUFOの写真鑑定をしてみて、トリックか本物かをより分けているそうですが、それによるとダニエル・フライやアダムスキーの写真はすべて偽物であるという論が出たそうですが、ステックリング氏はGAPやアダムスキー氏のUFO写真がインチキと出たという結論をどう思いますか。

答　科学者たちがアダムスキー氏の写真

は偽物だという意見を広めていることは事実ですが、しかしこれには何の根拠もありません。というのはアダムスキー氏と同じような宇宙船が世界各国のいろいろな場所で、いろいろな人々によって写真に撮られているからです。

問　太陽系はこれからどうなりますか、そして地球の未来は？

答　私たちの太陽系は大変古いので、スペース・ピープルはこの地球上で他の惑星の状態を調べています。今までの観測によりますと、地球が崩壊するだろうという証拠はまだみつかっていません。地球人が今までに行なってきました核実験は、たしかに地球の破壊という方向にもってゆくような要因ですが、核実験によって引き起こされる環境破壊ももちろん地球の破壊の方向につながりますが、だからといってそれが地球崩壊の直接の要因になるとはいえません。

問　お嬢さんのエリシアさんは異星から生まれ変わって来たそうですが、その過去世について憶えていることをすべて教えて下さい。

答　知っていますが、ここでは言えません。

問　地軸の変動は地球に何をもたらすでしょうか。それは今どの程度進んでいるのですか。

答　アダムスキー氏が一九六五年にスペース・ピープルと話し合ったところによりますと、地軸はたしかに傾いているけれども、また元にもどるかもしれないということです。もし元にもどらなければ、北極や南極の氷が溶けて海の水が増えて、各地の海岸に洪水をもたらすでしょう。

問　アダムスキー氏は生まれ変わって現在どのような事をしていらっしゃいますか。

答　一九六五年に彼が亡くなる三日前に私におっしゃったことですが、彼はこれから七年間別の惑星のコズミック・スクールに行くつもりだということでした。

問　キャトル・ミューティレーションは地球人が行なっているのですか。

答　地球人のやっていることでスペース・ピープルには全然関係はありません。

問　これからなさろうとしていることをお聞かせ下さい。

答　このプログラムで働いていますが、それは人々がそれを必要としているからです。この惑星で生きている限り、これが私の仕事となるでしょう。

問　もしスペース・ブラザーズから視力が回復する方法を教えられていたら、お伝え下さい。

答　今、私は四十一歳ですが、視力は完全で眼鏡を使わないですんでいますから、スペース・ブラザーズから視力回復法について教わる機会はありませんでした（笑声）。実際の眼ではなく、〝意識の眼〟については『生命の科学』によって皆さんと同じように教えられてきました。『生命の科学』は地球上の人々だけを対象にしたものではなくて、他の惑星でも生き方を教えるためのものです。

問　UFO教育センターについてご意見をお聞かせ下さい。

答　こういうグループを作ることは可能です。日本でもアメリカの各地でも、こうしたグループはありますが、GAPとは関係ないようです。

問　エドガー・ケイシーの予言についてお願いします。

答　ケイシーはサイキック（心霊的）でした（通訳氏はこのサイキックの訳に難渋した）。彼はトランス状態下で情報を得ました。彼自身はその経験から得るところはなかったようです。というのは自分が何を得たかを思い出すことができなかったからです。一つだけ言えることはあなたが自分の内なる声を意識の内に聞いたときに催眠状態だったら得るところは何もないということです。その際の精神状態は、はっきり眼が覚めた状態にあるべきでそういう特殊な催眠状態にあっては何も得るところはないと思います。

問　一九八〇年代の世界を予想して下さい。

答　わかりません。最も良いことは現在を最善を尽くして生きるということです。それによって何かが起こって、最後になったときでも後悔をしないように——。

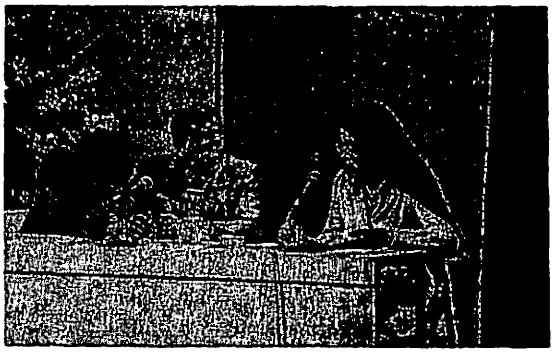
問　アダムスキー氏のUFO問題に関してはイエスに大変かかわりがあるということは理解しております。そこでシャカに関してもやはり何らかの援助ないし計画的なものがあったのでしょうか。

答　シャカは他の救世主が行なったように宇宙の法則というものを知っていました。これ以上深く申し上げれば、ほかの宗教を信奉なさっている方に影響があるかもしれませんから、ここでやめておきます。

シャカの教えもキリストの教えも大変良いことですが、それを実際に生かすことが大切です。

問　ジョージ・アダムスキーが海軍のある将校に宇宙船の設計図を手渡して、その模型を作って実際に作動したとのことですが、その設計図の詳細などわかりましたらお願いします。不可能かもしれませんが、コピーでもあれば頂けないでしょうか（笑声）。

答　アダムスキー氏はサンディエゴのある海軍の将官に招待されました。海軍の研究所に招き入れられて、そこで海軍が作った葉巻型の宇宙船を見せられました。これでわかりますように、アダムスキー氏は公表したり私に話したりした以



●質疑応答。片氏の代表質問に答える２人。

上にもっといろいろな事を知っていました。彼は彼がもっている知識の二割だけを一般に話しました。全部話しても理解してもらえないと思ったからです。コピーについてはあまりよく知りませんが、いろいろな国で一九六四年からこのような宇宙船を作ってきていることは知っています。もし私が宇宙船製作法を知っていたら、軍事機密を知ることになり、違法になりますから、それは不可能です。以前、アダムスキー氏がケネディー大統領から受け取ったクレジット・カードみたいな物を私は見たことがあります。それはアメリカの国防省や政府の機関に自由に出入りできるパスでした。

問　アダムスキー氏の著書の中で、月の裏側には空気があり、人々が生活しているけれども、地球から見える表側には生活できるほどの空気がないということだったと思いますが、それはなぜでしょうか。

答　地球でも同じように高い所へ行くと空気が薄くなり、低い所は大気が多くなるのと同様、月でもこちら側は地表が高くなっているので空気が薄くて、反対側はそうではありません。月の北と南の極には大気がもう少しあるようです。こちら側のプラトン・クレーターの上には、雲が沢山あります。ということはある程度大気があるということです。月は地球の六分の一で、大気も六分の一になります。地球上では海の表面では一千ミリバールという気圧があるのに対して、月ではクレーターの底の所で、百六十六ミリバールあるにすぎません。気圧が六分の一しかないので、住むためには、動くために邪魔になるような圧力が少ないので、充分ではないかと思います。

問　脳障害を持って生まれた人は、今までの過去世はむだになるのですか。来世はどうなるのですか。

答　大変むつかしい問題なので、ちょっと考えさせて下さい。もしご自分がそういう状態でお生まれになったら、そういう障害のある肉体は捨てて、自分の知識を表現できるような肉体に、引っ越しするみたいに引っ越せばよいのです。

問　スペース・プログラムは現在も進行中とのことですが、今地球上にブラザーズは何人ぐらい住んでいるのですか。

答　今の数は知りませんが、むかしは十二万のブラザーズが住んでいたことを知っています。しかし地球上で生まれ変わるブラザーズもいて、楽しい記憶を持っている人もいます。

問　アダムスキー氏が宇宙船で土星へ行ったときに、土星の本体に着陸したのですか、それとも衛星に着陸したのですか。

答　彼は土星に着陸しました。三日間そこですごしました。地球へ帰って来たときには体をかなりこわしました。地球の気圧が土星にくらべて大であったからです。回復するまで一週間寝ていました。

問　心と意識の相違を教えて下さい。

答　心は四つの感覚器官から出来ています。そして肉体に属しています。肉体が死ぬと心も死にます。意識は我々の魂で永遠のものです。私たちはこの肉体の中に住んで心を使っていますが、心が正常に働かなければそれを訓練すればよいのです。テレビ受像機が故障したときに直すのと同じです。

閉会の挨拶

久保田八郎

本日は最後まで熱心にご参加頂きまして、どうも有難うございました。おかげ様で盛大な総会を終了することができまして関係者一同、心より喜んでおります。あらためて深く御礼を申し上げる次第でございます。

アダムスキー問題は実際には大変な問題を含んでいると思います。よく質問を受けるのですが、そんな大変な問題をなぜお前のような無名の一田舎青年が一生懸命にやっているのか――こう見えてもまだ青年のつもりなのですが――もっと社会的地位のある立派な方が一生懸命になるのが当然ではないか、ということなのですが、いろいろ研究してみましたところ、どうも社会的地位、教養、学識、身分などとは全く関係のない、なにか過去世からのカルマというものが重要な要素をなしているのではあるまいか、ということを感じる次第でございます。それで今後ともこのささやかなGAP活動を続けたいと思いますが、これからの社会状勢それに地球の状態がどのように展開し、変化するかは予測を許しませんけれども初めに申しましたように、何事が起ころうとも宇宙の法則は決して変化しませんから、その法則の波に乗って前進するならば、おのずから自分の良き運命、良きカルマが形成されると思うのでございます。

今、UFO研究界は非常に混迷をきわめておりまして、一般の方には何が真実で何が虚偽であるかを判断するのは容易ではないと思います。しかし何が行なわれようとも自分の信念をつらぬくことを根本としまして、次にテレパシックな直感力を高めるように自己訓練を続けておりますならば、道はおのずから開けるものと存じます。ずいぶん多くのデマや噂などが広まっているようでありますけれども、これは地球の特徴でありまして、地球とはデマ天体だと言っても差し支えないほどでありますが、その程度の地球に自分が生まれてきたのは、みずからそのような環境を選んで私たちがこの世界に生まれてきたのでありますから、これはむしろ自分でその環境を切り開く必要があろうと思います。

今後も一層の努力を続けますので、よろしくご支援の程をお願い申し上げる次第でございます。どうも有難うございました。

※　※　※

付記

あわただしい八日間だったが、ステックリング氏夫妻の招待計画は大成功であった。十三日の総会の翌日は、十八日に東京12チャンネルのテレビ番組『びっくり大集合』に出演が決定していたため、同日正午にス氏をホテルから連れ出してテレビ局の車で品川の東京ラボへ行き、ここでステックリング氏持参のUFOフィルムやスライド等をビデオテープに複写する仕事に立ち会った。番組中に使用する映画だけはこうして事前にコピーをとるのである。ステックリング氏はフィルム類の資料をすごく大切にし、黒いカバンに詰めていて、絶対に手から離そうとはしない。だからラボの係員が複写作業を行なう間も、そばで見させる必要がある。つまりフィルム類だけを貸して、あとから返却してもらうということはしないのだ。

この作業はかなり手間どって、ラボを出たのは四時をすぎていた。この間にいろいろと個人的な話も聞いたが、それによるとステックリング氏のお父さんはゲルハルトという名で、第二次大戦中はドイツ空軍の大尉として、フランス戦線で戦死されたという。この血を引いているせいかス氏も航空機が大好きで、高校を出てからはパイロットか科学者になるつもりでいたところ、お母さんのすすめで料理の専門家になったとのこと。フランス料理を得意とし、その他ヨーロッパ料理が専門ということで、しかも彼にとってはこの道が最適だったのである。なぜなら料理というものは貧富の差なしに人間の必要物であるし、その意味で料理人は万人の欲求を満たし得る最重要な奉仕者なのだ。しかも彼のごとくシェフ（料理長）ともなれば欧米ではかなり地位が高く、どこへ行っても職がなくて困るということはない。編者はつくづく感心し、不況に強くて、どこの社会でも通用する職を身につけることの賢明さを痛感したのであった。

ラボを出てから都内を少し案内するつもりだったが、明日は朝が早いのでホテルへ帰ると言う。そこで途中で別れて編者は帰宅した。明十五日はス氏夫妻を日帰りの観光旅行で日光へ連れて行く計画だったのである。

帰宅してから天気予報をテレビで見るのに、どうも関東地方は雲行きが怪しくて雨が降りそうな気配がする。どうしたものかと考えているうちに、「京都へ行け！」という強烈な印象が内部からわき起こってきた。よし京都に決めようと、すぐに電話で事務局長の塙君に連絡したところ、今まさに日光行きの切符を買いに出かけようとしていたと言う。そこで急拠予定を変更する旨を告げて、京都行きの手配をするように指示した。これが大当たりであったことは翌日判明した。

十五日早朝五時にホテルへ行ってみると、ス夫妻はエリシアちゃんと共に身仕度をととのえてロビーで待機している。ス氏は実に律義な人で、約束の時間を確実に守り、決して相手に迷惑をかけない几帳面なタイプの人であることが次第にわかってきた。

●皇居前にて。

塙君共総勢五人で東京駅までタクシーで行き、新幹線に乗り込んだ。ス氏は東京駅がすごくきれいだと言って感歎の眼をみはる。駅ばかりではない。都内の道路にゴミがなく、人々は立派な服装をしているし、ビルのドアーやタクシーのドアーまでが自動的に開くので、たいした国だといって、しばしば驚嘆の言葉を発する。これはお世辞ではなく、彼は実際に欧米の大都市の例をあげて説明してくれた。そう言われればそうかなあとも思うが、実際は編者の〝作戦〟により、都内の特にきれいな個所――銀座、日本橋、有楽町、丸の内あたりしか見せないようにしていたのである。

新幹線の列車に乗ってからも、ずいぶん珍しそうに車内を見まわしている。この列車はアメリカでもブレット・トレイン（弾丸列車）と呼ばれて有名なので、ス氏は大いに喜んだ。列車が西下するにつれて空も晴れてくるし、全く快適な行楽日和となり、日光へ行かなくてよかったなあと塙君と語り合った。静岡県に入ると富士山がくっきりと見事な全容を見せているのでス氏夫妻は大喜びし、8ミリカメラで窓ごしに撮影した。この撮影機はかつてアダムスキーが愛用していたもので、アリス・ウェルズから贈られたのだという。ア氏がしばしば円盤の8ミリ映画を撮ったというその機械を手にとってみると、高貴な波動が身に伝わってくるような感じだ。しかもス氏が左手につけている腕時計もかつてア氏が愛用した品で、ア氏の体と共に金星や土星にも行った時計だという。これもアリスから贈られたもので、ス氏は今やア氏の後継

●銀座4丁目にて。

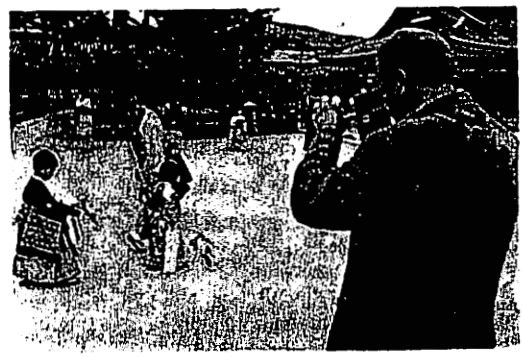
●平安神宮拝殿前。

者と目されているらしい。

列車中でス氏夫妻からずいぶん重要な話をたっぷりと聞き、驚嘆するとともにあらためてアダムスキー問題の深遠崇高さを感じた。ア氏が著書類に書いたのはほう大な体験のなかのホンの一部分にすぎないようだ。こうした情報はいずれだれかの手によって公開される時機が来るだろう。

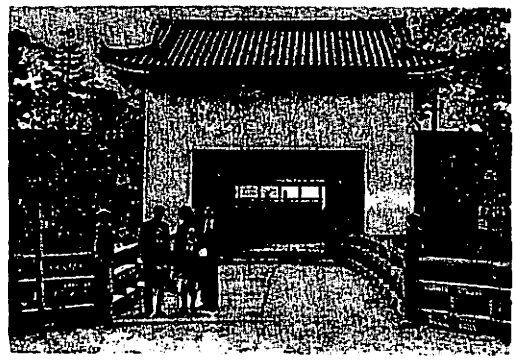
京都に到着後、駅前でタクシーを借りきって、市内を見学する。金閣寺、銀閣寺、竜安寺の石庭、平安神宮、清水寺、二条城等、主な名所を見て歩く。こうした日本の史跡や神社仏閣にどれほどの関心があるのか、意中を図りかねたが、いったいに夫妻は感情をあまりあらわさぬ人で、特にイングリッド夫人はきわめておとなしく、控え目で、もの静かな婦人であるから、異国の観光をどの程度にエンジョイしているのか、どうもよくわからない。しかし平安神宮へ行ったときは美しい建築物を嘆賞し、大いに気にいった様子だった。しかもこの日は運よく『七五三』で、両親に手を引かれた可愛い男女の子供たちが盛装して参詣に来ている光景が見られたため、夫妻の喜悦ぶりはたとえようもなく、ここでもス氏はしきりと8ミリを回していた。だがエリシアちゃんが大きなお人形さんをかかえている姿も日本人にはひどく可愛いらしく見えるようで、到る所で人々の眼を引いた。行きずりに頭をなでる人もある。神宮の広い境内には多数の女子高校生が来ており、十名ばかりのグループが夫妻を中に入れて記念写真を撮ったりする。こうした友好的（？）な態度は明らかに

●七五三の子供と記念撮影。



●8mmで撮影するステックリング氏。

●二条城を背景に。



●二条城裏門。

日本人特有のもので、欧米では決して見られない光景である。夫妻にとってはやはり民族衣装を身にまとった子供たちに興味を引かれるらしく、ハカマをはいた小さな男の子をひどく珍しがっていた。

日帰りの旅なので、かなりきついスケジュールをこなさねばならず、一同は少々疲れたけれども、実に楽しいツアーであった。編者はいわば二千名のGAP会員を代表して夫妻を接待しているのであるから、万事に極力神経を使い、かゆい所に手が届くように塙君ともども配慮したつもりだったが、あまりによけいなおせっかいをするのもどうかと思い、のべつまくなしに謀りまくることは控えるようにした。しかし二条城の入口では編者までが外人と間違えられて、係員の人から英語で注意されたのには実に奇妙な感じがするとともに、英語という言語の国際性を腹の底から感じたのであった。

ふたたび新幹線で帰路についたときは外も暗くなり、くたびれたけれども車中で楽しく語り合った。編者は塙君に対して通訳を兼ねており、重要な部分はその都度彼に日本語で伝えるのだが、これもよい体験になった。語学の話題が出て編者が英・独・仏・西の四カ国語を勉強中である旨を話すと、夫妻は首下に否定し、そんなに多くの外国語をやる必要はない、外国語は英語だけで充分だ、それよりもテレパシーの開発訓練をやれと言う。そしてスペース・プログラムに協力するには何といってもテレパシー能力を身につけることが絶対に重要だと力説する。そういえば夫妻は相当なテレパシストであるらしく、特にイングリッド夫人は一種の超能力者であり、他人の人柄や過去世まで透視できるらしい。とにかくテレパシー開発の重要性をあらためて読者にお伝えしたい。テキストはアダムスキー著の『テレパシー』一冊あれば充分で、他に必要なものはないとス氏は言う。心を中立の状態に保つことが根本的に大切だとしきりに説いていた。

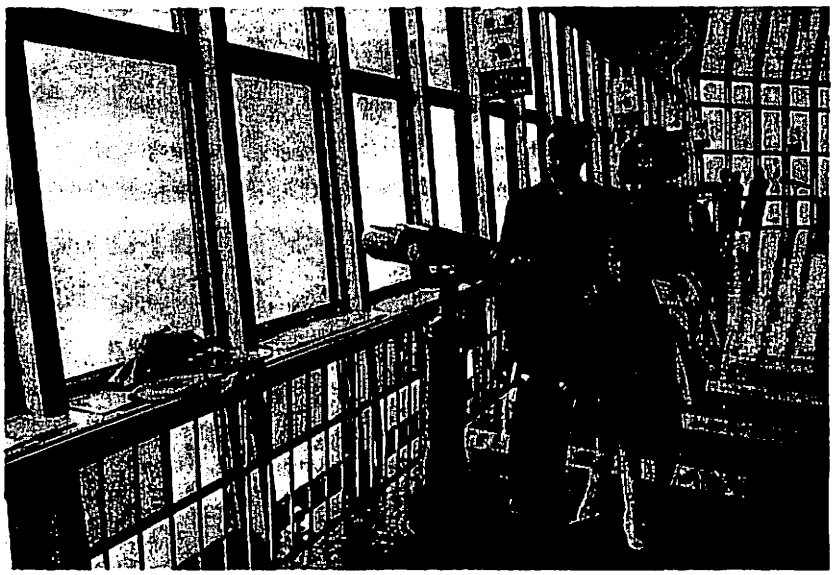
●銀閣寺にて。

夕刻9時すぎに帰京して、ホテル前で別れたあと、帰宅し、翌十六日は昼前にホテルへ迎えに行く。今日は都内見物の案内である。まずタクシーで東京タワーへ行く。あいにく雨模様で、この調子では展望台へ昇っても遠方は見えないだろうと危ぶみながらエレベーターで上昇してみると、果たせるかな大東京は白いモヤに包まれてさっぱり見通しがきかず、全く興ざめだ。上部展望台へ昇ると客はほとんどおらず、閑散としている。ステックリング氏の話によると、世界最大の都市は東京で、二位以下はロンドン、メキシコ市、ロサンジェルスという順になるということで、その最大の都市を高所から望見するのを楽しみにしていたらしい氏には実に気の毒だった。タワー下部の陳列館をしばらく散策したあと、今度は秋葉原の電気商店街へつれて行くことにした。このユニークな街は世界でも名高く、外人観光客向きの名所にもなっているのだ。

タワー前からタクシーで出たとき、いったん新橋駅まで行ってそこから電車に乗る方がよいという考えがチラと浮かん

だが、車に座り込んでみると体を動かすのが面倒くさくなり、そのまま秋葉原へ直行することにした。もちろんス夫妻は都内に関しては地理不明だから交通機関の利用法については何も言わず、すべてこちら任せである。ところがタクシーによる直行は大失敗だった。どうしたわけかこの日都心は車の大渋滞で、いっこうに進まない。イライラするが、どう仕様もない。I've never seen a big traffic jam like this before! (こんな大渋滞を見るのは初めてですよ) と話しかけるとス氏も No? (そうですか) と相づちを打つが、夫人は無言のままで、全く感情をあらわさない。そばに爆弾が落ちても騒がないタイプの女性らしい。

●東京タワー展望台。



やっとの思いで秋葉原のヤマギワに着いたときは何と二時間も経過していた！電車で来れば二十分もかからなかったのに——。最初にチラと起こった印象に従えばよかったのだと、大いに後悔した。

ヤマギワ内の各階を案内する。世界に誇る日本の優秀な電気製品の山を見て、ス氏もさすがに関心が高まるらしく、あれこれと子細に観察するが買おうとはしない。いったいに夫妻の節約ぶりには感心のほかなく、しかも東京は物価が高いという実情をよく心得ており、都内のどこを歩いてもショッピングを楽しもうという気配はなかった。ただ京都の銀閣寺付近の土産物店では、エキゾチックな小物を二、三入手していた。

ヤマギワを出たときは五時をすぎており、外は薄暗く、雨が降っている。小走りに駅へ出て、今度は電車で引き返し、銀座の喫茶店で塙君を待つ。そのあと、出版社のインタビュアーが来て、テープに録音しかけたが、あたりが騒がしいので明日ホテルで質問表を見ながら録音するとス氏は言う。

夕刻一同は中華料理店へ入り、中国料理を賞味する。これはス氏の大好物らしく、大いに食べて談笑した。氏の話によると、ドイツから最初カナダへ移住したとき、あまりにおいしいので半年間は中国料理店で食事をしたという。〝日本人の女を妻に持ち、中国料理を食べながら西洋式の家に住む〟のが白人には最高だという言い伝えを昔からよく聞いたものだが、第一項はともかくとして、第二項は本当らしい。

ここでもアダムスキー問題が出て、秘話をたっぷり聞いた。

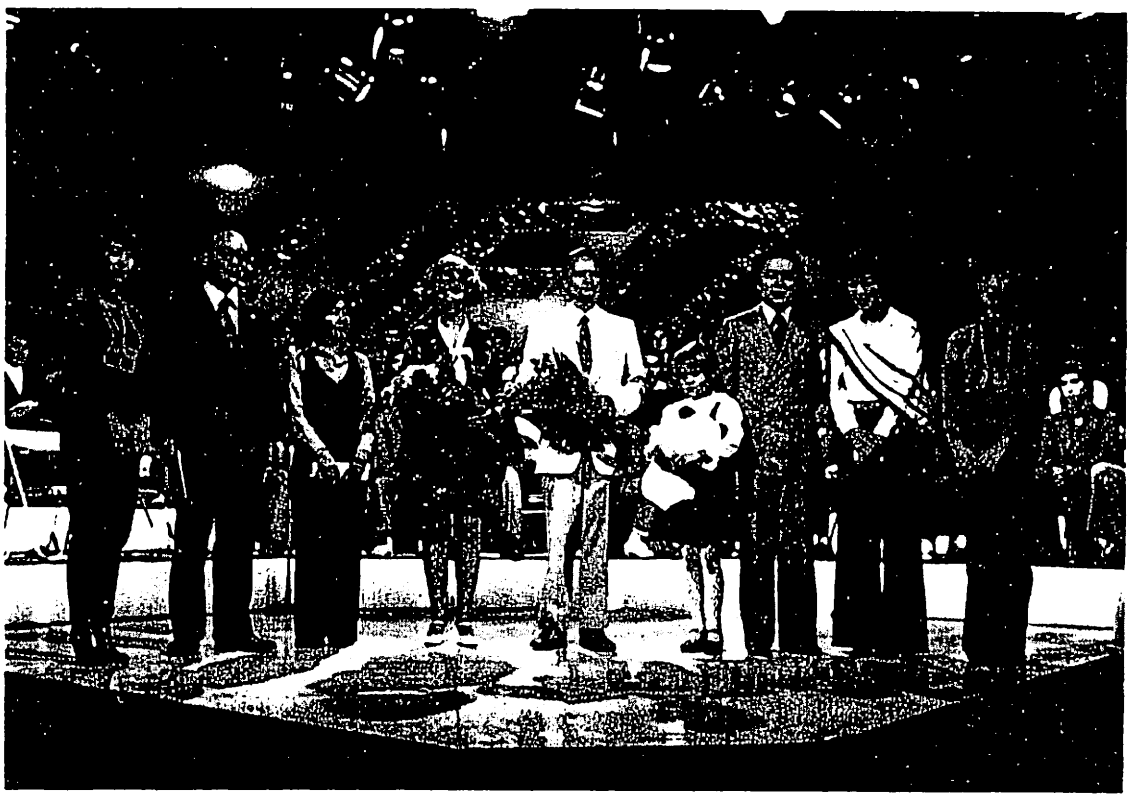
翌十七日は夫妻のための自由行動日にあててあり、編者は全く顔を出さなかったが、あとで聞くと、親子三人で銀座方面へ散歩に出たらしい。デパートでは売子の多いのに驚いて、どのコーナーへ行っても美人の店員だらけで、アメリカのデパートとはだいぶ様子が違うと話していた。

十八日はいよいよ東京12チャンネルに出演する日である。正午に有楽町の日劇の前で待っていると、テレビ局さしまわしの車が迎えに来る。もちろん〝主演〟はス氏であり、編者はワキ役にすぎない。

局に到着後、早速打ち合わせが始まりしばらくして今度はスタジオでまずリハーサルにはいる。これは約一時間半かけて綿密に行なわれた。やっと終了してから休憩時にス氏が驚いたような顔をして言う。アメリカでも何度かテレビに出演したがこんなリハーサルなどはやらない。出演十五分くらい前に事務所へ呼ばれて、これこれの質問を出すから適当に答えてくれと言われるだけで、あとはすぐ本番に移る。それからみると日本のテレビ局はおそろしく丁寧で正確だと話す。その表情が生真面目なためにかえっておかしくなり、ずいぶん簡単なやり方ですねといって笑うと、彼も笑い出し、結局二人で大笑いする有様だった。

本番直前にゲストの男女学生が四十名ほど入場し、ステージの背後に並ぶ。いよいよ本番となり、緊張した一時間半が

●東京12チャンネル・テレビ番組「びっくり大集合」に出演（11月25日夜8時より放映）。



すぎたが、そのうち重要な事に気付いた。番組は一時間のはずなのに、それを超過しているとすれば、ビデオテープの編集時にどこかをカットするのではないか。編者が五月に出演したときはそんな様子はなかったのに——。

果たしてカットされていた。十一月二十五日の放映を自宅のテレビで見ると、月面スライドや、編者の〝オニール橋〟の説明、キャッツアイによる花束贈呈の部分などは出てこない。残念だったが局としてもやむを得ないのだろう。

十四日の東京ラボでも十八日のスタジオでもそうだったが、UFOに興味をもつ英語の達者なフランス人の若い雑誌記者と知り合いになり、ルールドに関していろいろと尋ねてみたら、貴重な情報を与えてくれた。ルールドはフランス人にとって絶対的な聖地となっているらしい。ルールドというのは全くの日本式発音で、二字目の「ル」は喉の奥で響かせる、いわゆる〝パリのR〟といわれる音であることがわかった。

十八日、スタジオでの録画が終了したあと、銀座へ出て、塙君が合流し、夕食は日本料理店で『しゃぶしゃぶ』をやろうということになった。この料理の名はよく聞いているものの、いまだかつて試みたことのない編者は、多少の好奇心も手伝って席につく。牛肉の片を熱湯の中にしゃぶしゃぶとつけて煮ながら食べるからそのように呼ばれるのかどうかは知らないが、結構おいしい。だいたい粗食に慣れてきた田舎育ちの編者は豪華な食事にあまり関心が起こらない性分だが、このときは最後の晩餐とあって、大いに食べ、飲み、語った。係りの仲居さんがステックリング氏のフィルム類の入った黒カバンを預って持って行ったのが気になるらしく、あのカバンを取り返してくれというので、くだんの仲居さんに持って来てもらったら大安心していた。一刻も手から離せないらしい。

夫妻は『しゃぶしゃぶ』を大喜びし、あまり物を食べないイングリッド夫人も、このときはおいしそうに賞味していた。ステックリング氏はわりと日本酒に強く、一合ぐらいは飲めるようだ。ただしビールとちゃんぽんで飲むと、翌日は必ず頭痛がするという。話によるとステイーブ・ホワイティングはかなり酒に強いらしく、しかも相当量飲んでも決して酔わないという。

まだも語学の話になり、聞いてみると夫妻ともベルリンの生まれで、高校まではベルリンの学校を卒業した幼なじみであるという。夫人だけ幼時にカナダへ移住したと思っていたのは編者の感違いだったようだ。それにしては二人とも米人同様に英語を話すが、たまにはドイツ語で話し合うこともあるのですかと尋ねると、かなり忘れたのでほとんど話さないと言う。ひとつここで二人でドイツ語の会話をやってもらいたいと頼むと、われることなく話し始めたが、思い出しながら訥々としゃべっている風情で、発音の鋭い勢いのよいドイツ語というようなものではない。ドイツ民謡の『故郷を離るる歌』が日本ではポピュラーだと話すと、イングリッド夫人が微笑しながらそれをドイツ語で口ずさむ。彼女の老いたお母さんはまだベルリンで健在だとのことだから、さだめし望郷の念にかられることだろう。しかしス氏はナチス時代を思い出したくないように見受けられ、ドイツの話はあまりしたがらない。彼の著書にもあるように、兵器のオモチャを見ることさえ避けるようにしているが、これは確実に人間の潜在意識に殺人の想念を植えつけるので、子供たちに銃その他のオモチャを与えることは厳禁すべきだと言う。そういえば東京タワーの展示場で電子銃による子供用の射的場の前に来たとき、「これはよくない」とつぶやいて、急に足の向きを変えてしまったのを思い出す。彼の宇宙哲学の実践は徹底しているようだ。

談論風発尽きるところを知らぬ実に楽しい一夕だったが、時間に限度があるため十時すぎに引き揚げて、ホテルまで見送った。

明くればいよいよ別れの日である。名残り惜しいが、いつまでも引きとめておくわけにはゆかない。夕方の六時半にホテルへ迎えに行くと、すでに荷作りを終えてロビーに沢山の荷物が出してある。GAPの会員の方々からの土産物が多くて、大変な荷物だ。飛行機に積めればよいがと心配しながら運び出そうとするとス氏は専用バスで空港まで行きたいと言う。要するに滞日中のあらゆる費用をこちらで負担したのを気の毒がって、せめて空港までのタクシー代を節約しようという意向らしい。いいから、いいから、と安心させてタクシーで出発した。

夜空に浮き上がった東京タワーの美しい電飾が高速道路から見える。けだし夫妻の胸中は複雑だろう。空港に着いてみると飛行機の出発は一時間遅れると表示がしてある。食堂へ入って、軽く飲み物をとりながら最後の談話のひとときをすごした。やがて国際線ロビーへ入ると、ものすごい行列ができて、大混雑を呈している。ハイジャック防止のため、警戒が厳重で、税関の検査に手間どるために行列になるらしい。荷物を持ちながら塙君としばらく行列に加わっていたが、前進するにつれて列から離れて、夫妻やエリシアちゃんと握手を交わした。グレン、スティーブ、アリス、マーサによろしくと言ったら、ス氏は途中から急に顔をそむけてしまった。なおも行列のわきについて前進しながら見ると、イングリッド夫人はハンカチを眼にあてており、ス氏もうなだれている。

三人が税関に入るのを見とどけた私たち二人は、更に特別送迎室を通り抜けて奥の出発ロビーの外側ののぞき窓の所へ行った。ここで最後の声を交わす予定だったが、飛行機の出発がせまっていると思ったらしい夫妻が大急ぎでロビーからかけ出すのをチラリと見たのが最後だった。

とにかく実り多い八日間だった。編者と塙君とで綿密に企画した接待はスムーズに運び、何もかもがうまくいって、全くトラブルは発生しなかった。細心の注意を払って行動したつもりだが、不充分な点もあったことだろうと反省している。しかしこの大成功の裏には募金運動

にご協力下さった会員の方々の絶大なご援助が燦然と輝いている。これは永久に銘記しなければならない。事情により募金参加者名簿の公表は差し控えるが、事務局には大切に保存されている。羽田空港での見送りを都内在住の方々に呼びかけなかったのは、会員のみなさん方にこれ以上ご迷惑をかけないようにしようという配慮と、ス氏の荷物がこれ以上土産物でふくらまないようにとの思惑を働かせたためである。あしからずご了承頂きたい。実際、あれだけの荷物をアメリカまで運ぶのは大変だったことだろう。

すでに述べたように夫妻滞日中はアダムスキー問題に関して驚異的な秘話を多く聞いたが、これはいずれ時機が来れば公開できると思う。目下は残念ながら、ごかんべん頂きたい。ただ言えることはアダムスキー問題は皆様方の想像以上に深刻かつ重大な事柄で、単なる興味本位の話題ではない、ということである。そして彼がもたらした哲学――『生命の科学』『テレパシー』等――は、人間の生き方の指導書として、この世界で最高のものであると断言したい。

アダムスキーの高貴な精神を受けついだ誠実きわまりないステックリング夫妻が総会の席で行なった講演内容こそは、まさに宇宙の法則そのもので、人間を高次な段階に引き上げるための貴重な指標であると思う。その総会には一人のスペース・ブラザーが来ておられたと、あとでス夫妻が語っていたが、さもありなんである。真剣にスペース・プログラムに協力する人は、どこからともなくブラザーズまたはシスターズからの注目をあび、援助を受けることになる、とス氏は力説していた。ブラザーズは意外な場所で意外な仕事についていることもあり、普通人はそれに気付かないだけだということである。

ス氏夫妻は十九日夜羽田空港を出発して、途中ハワイに寄り、ホノルルで三日間すごしてからロスへ帰着したそうで、三人共無事に帰宅したから安心してくれと十一月二十八日付の書簡で知らせてきた。それによると、あらためて日本の素晴らしさ、日本人の服装が立派で、勤勉で、礼儀正しい国民であることを讃え、ドイツ人も勤勉だけれども押しが強くパワーフルだと述べてあった。また、例の『しゃぶしゃぶ』がよほど気にいったらしく、帰宅後、見よう見まねでこの料理を再現して一同で賞味したという。滞日中に彼が撮影した8ミリフィルムは現像後にコピーを一本製作して送るとのことで、いずれ例会等で映写するのも一興かと思う。

ある一つの理想主義または哲学をバックボーンとした人間の善意や親切さほど美しく純粋で高次なものはないだろう。いかなる批判や攻撃にも全く反応をあらわすことなく、宇宙的な人間としての生き方を示し、その生きた手本として貴重な教訓を与えてくれたステックリング夫妻は、それだけでも次元の異なる人物であることを証している。当然のことながら、その背後にはブラザーズやシスターズの援助があるのだろう。

最後に一言。ステックリング氏が語ってくれた宝石のようにきらめく美しい言葉の中で、次のような一節がある。

「地球人の争いは大体に〝嫉妬心〟が原因となっています。もし自分の内部に嫉妬心がひそんでいることに気付いたら、すぐにそれを除去しなければなりません」

この言葉はアダムスキー氏から伝えられたもののようだが、今、編者の耳には天空の彼方から響いてくる気高いブラザーズの声のような気がする。

（久保田記）

（37頁より）
宙的性質が得られるであろう。そしてこれは意識に記憶されるであろう。また、これを実行する者の他には誰にも解らないであろう』

（以下次号）

昭和52年度 日本GAP総会会計報告 日本ＧＡＰ事務局

1. ステックリング氏夫妻（令嬢共）招待募金内訳
（募金期間＝52年５月29日～12月14日。１口¥1,000）

口	数	人数	金額
0.5口	¥ 500	1	500
1	1,000	224	224,000
1.5	1,500	2	3,000
2	2,000	143	286,000
3	3,000	106	318,000
4	4,000	5	20,000
5	5,000	73	365,000
6	6,000	1	6,000
7	7,000	2	14,000
10	10,000	41	410,000
11	11,000	1	11,000
15	15,000	3	45,000
20	20,000	7	140,000
30	30,000	2	60,000
50	50,000	1	50,000
70	70,000	1	70,000
100	100,000	1	100,000
計		614名	¥ 2,122,500

2. 総会入場者数　467 名
（内，招待者）　(25)

3. 入場料（１名　¥2,000）
（¥2,000×442名）　¥ 884,000

4. 募金・入場料合計金額　¥ 3,006,500

5. 支出合計金額　¥ 2,120,444

6. 差引残高　¥ 886,056

備考

- 久保田主宰者共会員の役員15名は無報酬による奉仕活動としました。
- ステックリング氏夫妻及び令嬢招待募金協力者名簿は事務局に保管してあります。
- 残金¥886,056は郵政省東京地方貯金局に預金し，昭和53年度総会の基金に当てます。
- 極力節約したつもりですが，当節の物価高は如何ともしがたく，予算を上回る出費となりました。ご了解下さい。

7. 支出内訳
（52年11月11日～11月19日）

細目	金額
ステックリング氏夫妻（令嬢共）航空運賃（往復）	775,664
講演謝礼（夫妻宛）	100,000
３名分帝国ホテル宿泊料	248,245
滞在中の食事代（役員慰労会を含む）	248,985
講演打合せ会費（喫茶）	21,280
タクシー代（９日間）	10,670
ヤクルトホール使用料	304,400
総会・京都旅行記録写真費（スライド共）	56,600
講演通訳料（ビーリー夫人宛）	50,000
花束代	30,000
着付料（花束贈呈者）	17,410
総会当日役員弁当代（23個）	23,000
総会用リボン（蝶結，中旭光，バラ他）	16,940
役員食事・喫茶代（総会打合せ）	17,230
役員宿泊代（遠方よりの２名２泊分）	22,000
東京文化会館室料（試写打合せ）	8,400
カセットテープ（講演録音用他）	6,950
8㎜映写機借用料	5,000
ステックリング氏夫妻宛都内地図他	1,980
招待券その他の写植・印刷・コピー代	14,750
交替受付係謝礼（10時より２名分）	10,000
ステックリング氏夫妻宛プレゼント（ＵＦＯランプ）	8,000
子息グレン君宛プレゼント（時計付電卓）	15,700
雑費（事務用品他）	3,760
京都旅行交通費(東京より５名分往復)	72,000
京都市内観光貸切タクシー料金	24,800
各名所見学料（５名分）	4,280
エリシア嬢宛おもちゃ	1,300
甘酒５名分（清水寺にて）	1,100
計	¥2,120,444

会員の声

投稿歓迎。「会員の声」宛と記し、原稿用紙を使用して一行を十六字でお書き下さい。行数は自由。

イメージを描いて
入学実現

宮城県　安藤澄雄

昨日は（東京月例会で）素晴らしいお話を聞かせていただきまして誠に有難うございました。

毎月、遠い宮城県から四時間かけて参加するのですが、そんな旅の疲れも毎回得られるものに比べれば何でもありません。それに、こうして録音したテープを仙台支部の方々に聞いていただけるのは何より嬉しいことです。仙台の方々が目を輝かせて熱心に聞いておられる姿を見るのは本当に楽しいことです。

ところで、このような苦労（?）も来年の三月までで終わることになりました。といいますのは、実は私は東京の写真校に合格いたしまして（ついこの間合格通知を手にしたばかりです）四月からは東京に住んでいることになる私が仙台支部のためにテープを送ることになったからです。

この合格は例の〝心にイメージを描く方法〟によるところが非常に大きいと思います。約半年近くもの間私が合格通知を手にして喜んでいる姿を描いて来たのです。これはなかなかつらいことでした。どうにかすると「もしかしたら……」と不安が起こりがちで、「いや、絶対だいじょうぶだ！」と何度声に出したか知れません。よくもこんなに信じていられたものだと自分でも驚いています。その信念をささえてくれたものに、先生のお手紙による励ましがありました。十月十六日付のお手紙では「私が受けた印象では写真の道に進まれるのが適しているような気がします。それは筆跡から直感しました」と言ってくださり、また十月二十二日付のお手紙ではカメラに関するアドバイスをいただき、くじけそうになるたびに、それらのお手紙を読み返し、信念を固めたものでした。

私の合格した学校はたいてい合格するようですが、それでも一浪しているということから「もう浪人して親に心配をかけたくない」という気持もあり時々不安が押し寄せて来たのです。

とにかく合格しました。宇宙の法則に従ったカメラマンになろうと思います。本当にお世話様でした。

ところで今日はお願いがあるのです。昨日、先生の御講義のトランスクリプト七、八月分をお渡ししてまいりましたが、それを注文してくださった方で、京都の木村幸夫さんという方がいらっしゃいます。この方は心臓心気抗進症というご病気のため、外出できないということなのだそうです。私は一応、浅井一彦博士の「ゲルマニウムと私」をおすすめしておきましたが、それよりも木村さんを見舞ってあげるほうが良いのでは、と感じています。木村さんはGAP会員の知り合いは一人もいないということで、私の励ましの手紙をこちらが恐縮してしまうほどに喜んでくださいました。そこで私などよりも誰か京都の会員の方が直接見舞ってくだされば、それで木村さんの近くに住んでいらっしゃる方を先生が御存知ならば、その方に先生から「見舞ってあげて下さい」との御連絡をしていただけないものかとお願いいたしたい次第です。

心臓心気抗進症というのがどんな病気なのか全く知らないのですが、どんな病気でも見舞ってくれる人がいるというのは、どんなにか心強いものかと思います。ぜひお願いいたします。木村さんの住所は左記の通りです。

〒600 京都市下京区楊梅西洞院東入59

現実を直視しよう

東京　山木益巳

GAPに入会して早くも三年が過ぎました。高校のころに腎炎を再発させて以来、体力がガクッと落ち、今でも動めがきついのですが、しかし高校時代が私の人生にとってひとつの転機となったように思います。

学校に通うだけでせいいっぱい。歩くだけでも苦しい思いでしたが、しかし〝生きる〟という事をずいぶん考えました。この世に生を享けた者は必ず死なくてはならない。人はいつか死ぬのになぜ生きてゆかねばならないのか？　一体生きる事に意味があるのだろうか？　そんな想いが駆けめぐりました。

今考えてみますと、この「なぜ生きてゆくのか？」という問がGAP入会のひとつの動機となったように思います。社会に出てからの三年間の寮生活は苦しい事ばかりでした。テレビの大音響の為に考え事すらろくにできず（夜の二時ごろまで部屋の先輩はテレビを見ておりました）ク タ ク タになりましたし、本など読もうものなら、まわりから白眼視されました。そしてまた極度の緊張状態の連続の為に、すっかり体をこわしました（幸いアパートに移ってから胃は元にもどりました）。よくもまあ三年間がまんしたものだと感心します。

まるで気が狂いそうになる寮生活でしたが、今にして思えば、この寮生活もひとつのレッスンになったようです。地球人の低劣さ（まともな本すら読まないほどの低劣さ）をそれこそイヤというほど思い知らされました。風邪で寝こんでしまった時ですら部屋でマージャンをやられたり、夜遅くまでテレビを見られたりまったく心の安まる事がありませんでした。それほどまでに地球人は自分本位で思いやりがないのです。善を行なう者はいない、ひとりもいないという聖書の一節が思い出されます。我々はまずこの地球上で生きてゆかねばなりません。現実というものを直視せねばならないのであり、単なる夢を追いかけていてはダメなのです。

また仕事をやってゆく上では、いかなる人とも調和してゆかなくてはいけません。そうしないと仕事ができなくなります。いかなる場合においても人間は自分ひとりでは生きてゆく事ができないからです。地球人はあまりに自分本位で「自分が中心となって世の中が回っているんだ」というような自我の強い人間が多すぎます。しかし、いかなる場合においても忍耐あるのみ！　GAP会員であるならばそれぐらいの事はできなくてはいけません。しかしそうは言ってもやはり腹がにえくりかえるほどになる事もあり、相手をなぐり倒したくなる事もあるものです。ですが後になって、そんな分裂感情を起こしても自分にとって何の役にも立たない事に気付き、「バカバカしい事だ」と思います。分裂感情を起こしてもそれはあくまでも自分自身の責任であるという事が言えると思います。

生きてゆく事は決して容易な事ではありません。しかし「逆境は人をつくる」という言葉があります。日々の生活に生じる困難事は自己の魂を高める為の試練なのではないでしょうか？　貧困の生活をおくったモーツァルトの音楽や、波乱に満ちた人生をおくったワルターの演奏に耳を傾けてみようではありませんか。天国的ともいえる程に明るい演奏をきいていると、まさに「幸福も不幸もことごとく昇華した音楽」と感じます。

少し話がそれましたが、今の私にとって、他人といかに調和するかが課題であり、超能力開発などはそうした精神面の荒い部分を排除してからでないと、どうもダメな気がします。それではきょうはこの辺で失礼します。

テレパシーで
引き寄せられる

千葉市　鈴木伸一

会員の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。日夜研鑽にお励みのこと

と思います。先のニューズレター第61号中、久保田代表の「宇宙瞑想」の文中、代表が某日の午後都心である人に出会うことをテレパシーで予知し、又それが実現するというくだりがありました。即ち代表がかねてより探していた手帳の所在を透視しその透視が正しく、勤め先へ出かけてその手帳を手にし、折角都心に足を向けたのだからと新宿の紀伊国屋書店に足を運ばれ、その折、同じGAP会員の某氏と出会うというテレパシックな印象を受け、正しくそれが本当になったというものです。この時、代表の方は某氏とこの都会の雑踏の中で出会うことをテレパシックに感じてみえた訳ですが、またもう一方の某氏の方は同じ時にどう感じていたのでしょうか。テレパシーの実在を認める人なら興味をもたれることではないでしょうか。

私の勤めは土曜日は半日。たいていは昼食をどこかですまし、三時頃までには帰宅するのが普通。しかしこの日はすこし違っていました。いつもの通りなら、この日は過日見つけたある本を飯田橋で求めた後、昼食をすませて帰途につくだけなのです。飯田橋に出た時、「誰かにどこかで」出会うという印象がわいてきたのです。そのため帰途につこうとはしなかった。飯田橋で一冊の本を求めたあと「UFOと宇宙」誌も求めるつもりでいた。そのとき新宿へ出ようという考えがひらめいたのです。

新宿という街は以前の私なら別ですが、今は嫌いだ。イヤなところばかりが目についてしまうから。仮に新宿に出ても紀伊国屋書店のほかには一見華やかな都会のにぎわいをすこし感じとると、たいていはすぐにこの街を離れるようにしている。新宿へ出て、その書店で「UFOと宇宙」誌を求めたあと、各階の売り場を一通り見て帰ることにしよう。そう考えが決まると私は駅に向かったのです。

新宿の土曜日の午後は大変な人出だ。わき目もふらずに——若い男女が、綺麗な女性がいっぱい行き交う盛り場で、それに目を向けぬのはむしろ不思議かも。しかし、ここ新宿では出来るだけそうしている——まっすぐその書店に向かった。そこは他のビルのどの売り場よりも混んでいるように思われました。UFO誌を求めたあと、その階をさけた。あまりにも混んでいたから。洋書のある階へ行った。この店に来た時には洋書売場へも必ず足を運ぶことにしている。代表はかつてここでアダムスキーの原書が置いてあるのを見つけたことがあるというし、私もエドガー・ケーシー関係のものを見つけたことがある。又UFOに関する雑誌も置いてある。それにMCエッシャーの作品を載せた本も見つけたことがある。

この日これらの売場ではこれといって面白そうなものを見つけることはなかった。さあ帰ろうと思って頃を上げた時、一つの考えが浮かんだのです。2階の心理学・宗教・歴史のコーナーへ寄ってから帰ろうと思ったのです。この左から教育・心理・宗教・歴史と並んだ一角に何か特別な目的があった訳ではない。どこでもよかったのですが、なぜかその角(そこは文字どおりカドでした)へ行ってから帰ろうという強い印象が生じたのです。やがてその引力の理由がわかりました。

そのコーナーも他と違わず人でいっぱいだった。その中に見覚えのある後姿を発見したのです。はじめ声をかけた時、その人は全く見向きもしない。心理学関係の本を一心にみている。ひとくぎりつく間を待ってその人が本から一瞬目をそらした時もう一度声をかけた。まさしく代表でした。以下はニューズレターの中で代表が述べられているように喫茶店に入っていろいろ話をしたあと一緒に帰途についたのです。

代表の方ははっきりと誰それに会うかも知れないという印象を得ていた一方、その相手はただ誰かに会うという印象を受けていたのです。そして時を経過して、特定の場所へ相手が居る時に引き寄せられたというわけです。二人の感じ方の違いにも興味深いものがありますが、大東京の一隅で人と人が出会う確率を思うとき、不思議なものを感じずにはいられません。

オーラが見えるようになった

札幌市　大友正英

私が日本GAP会員に加えていただいてから、ちょうど二年になりました。最近いただいたニューズレターによりますと、会員が二千名に達したそうで、本当に喜ばしいかぎりです。これも久保田先生はじめ、会員諸氏の努力のたまものでありましょう。私の会員番号から察して、二年間で五一七名の会員が増えたことになりますね。

私がアダムスキー哲学を知った時は、実にアダムスキー没十年後のことでした。私はこの哲学を十年、二十年早く知っていたらなあと切歯したものです。でも、いまだそのチャンスに恵まれないままでいる多くの人々の事を考えると、このチャンスをあたえて下さった久保田先生に感謝せずにはおられません。何はともあれ、読むだけではだめだという教えにしたがって、さっそく実践にふみ切ったのですが、何とむつかしい事でしょう。はたして進歩しているものやら、でも進歩することを信じて、牛歩以下の歩みを続けている現状です。

そんな私にも、最近ちょっとした変化が生じましたので、お便りする気になった次第です。それはオーラらしきものが見えはじめたことなのです。ちょうど二ヵ月位前のことでした。なにげなく自分の手を見ていましたら、線のようなものが指先から噴き出ているのに気づきました。「あれ、これがオーラかしら……」と、その時とっさに思いました。

オーラには色があって、後光といわれるように発光しているものと聞いていたので、自分の見たものがはたしてオーラと呼ばれているものなのだろうかとまよいました。

もう少しくわしく説明しますと、黒っぽい壁に向けて手をかざしたこと。そして間違いなくオーラは放射されているのだから肉眼で見れないだけなのだと信じて見つめたこと。そして、かならず見えると自分に言い聞かせたこと、などによるようです。

私が今見えるものは、色は見えず乳白色というよりは透明色とでも言いたいもので、短い沢山の放射線が連続的に噴出しているものです。時々すーっと長い線も見えるのですがそれは乳白色のようです。でも一瞬のうちに見えなくなりますので、言葉で表現することはとてもむつかしく、自身で見るのが一番よいと言いたくなります。皮膚のあちこちから噴出しているその放射線は、霊的なユラユラしたものではなく、とても力強い勢いをともなったエネルギーの放出とも言えるようです。

最近、キルリアン写真というものを見まして「これだ!」と思いました。あんなにすばらしくは見れませんが、あの写真と同じものだと思いました。まだ自分の手しか見えませんので、これから次第によく見えるようになるのかも知れません。一方テレパシーの方はさっぱりわかりません。オーラが見えるようになったということも進歩の一つなんだろうと思いますが、テレパシーの方も進歩してもらいたい気持です。

以外だったことは、オーラが見えたのに、さっぱり感激がわかないことです。それというのも、そのことを考えると、きまって「特別の事ではない」という思いが内奥からはねかえってくるからなのです。全国の会員の皆さんも、自身の訓練を続けておられることと思います。

その力をフルに活用しなければならない時が、もうすぐ近くまで来ているのかも知れません。久保田先生のリードにしたがって大通りからはずれないように進みたいものです。

総会には出席できず残念でした。この世界はお金がないと不便で困り

ます。次回のニューズレターを楽しみにしております。

地球人も宇宙人

栃木県　山中洋子

私、今回初めて会員になったものです。ニューズレター誌を送って頂いてほんとにありがとうございます。全部読んでみてGAP会員になってよかったと思っています。まだ「宇宙からの訪問者」は読んでいませんが、直ちに読了する予定です。また「テレパシー」「生命の科学」も是非読みたいと思っています。早く会員の皆様の水準に追いつきたいと願うものです。

ニューズレターの「さらばニューイングランド」を読んで、久保田先生の楽しい旅行記から、先生の博学と人柄の良さを感じました。今のところ、アダムスキーのことをよく知らない状態ですが、過去世のことなど（老子かまたはその弟子であったとか聖書の中に登場していたとか）に触れて、その哲学がキリスト教のみならず、仏教的側面があるのだとわかりました。深く興味をそそられた次第です。

私たち地球人は他の惑星の人々からすれば宇宙人ということになるでしょう。そして宇宙人同志のテレパシーによるコンタクトは、宇宙の真実の一面なのでしょう。私はそういうことにはうといものですが、GAPの会員の皆様の中には少なからずコンタクトマンがいるのでしょうね。なんとすばらしいことでしょう。

宇宙はどこまで続いているのでしょう。その広大な世界にあって、日本という平和な（現代）時代の平穏な国に住んでいる私は、幸福なのであると言えるのだなあ、なんて夢想します（事実はそれほど幸福ではないのですが……）。ア氏の宇宙哲学を求めなければならないということはわかっています。

63号が待ち遠しい私です。先生のご健康をお祈りいたします。

テレパシーの練習法に関する質問

千葉県　石川方栄

先日、月例会に初めて出席させていただき、とても貴重なお話をどうもありがとうございました。

さて早速ですが、テレパシーの練習について一つ質問があります。海を見る練習についてです。先生のお話から私の理解したところによりますと、「全身が海水につかり、冷たくて爽快な感じがするだろうということを想像する。そして海水との波動の触れ合いによって全身が活気づけられてくるのを感ずる」ということで、このことは「テレパシー」の九十六頁に書いてあることですね。

この方法について多少気になる点があるのです。といいますのは、私は以前〝シュルツの自律訓練〟なるものを実践しまして、ある程度の成果を得たことがあるのです。ご存知かもしれませんが、この訓練は自己暗示により心身の緊張をほぐし、さらに心身に対する自己統制の技術を身につけるというもので、その方法は簡単。私の実行したものは第一段階で、四肢に重量感をあたえるように暗示します。問題は次の第二段階で、四肢に温暖感をあたえるように暗示します（たとえば「右腕があたたかい」を数回くり返すわけです）。この段階で適切な暗示が行なわれますと腕や足の毛細血管が拡張し、血行量が増加し、実際に皮膚温が上がってくる、ということなんです。

しかし私たちの実行しているテレパシーの訓練は、ある面でこのことの逆をいってしまうのではないでしょうか？　つまり全身が冷たくなってゆくことを想像するのですから、私の気になる点というのはここなんです。もし実際に体温が下がるようなことがあったりしたら、体になんらかの害があるのではないか？　それでなくてもこれからは気温が下がってきますし、なんといっても海での訓練ですから寒さはさけられません。私は海で仕事をすることが多いものですから、暇をみつけては訓練するようにしています。もちろん今までに私の心配しているような害はありませんでした。おそらくは私の取越苦労かと思います。しかしこのままではその心配事が否定的想念となってしまいますよね。どうか適切なお答えをお願いいたします。

お答え

先般の月例会で「今は冬ですから海との一体化訓練で体が冷えてきては危険なので……」と申すのを忘れてしまい全く汗顔の至りです。

たしかに冬の凍るような冷たい海水との一体化訓練は、感受性の強い方ならむしろ有害かもしれませんので、やらないほうがよいでしょう。しかし海水の波動をキャッチして爽快な気分を起こす程度なら、やはりテレパシーの開発練習には不可欠の対象になると思います。万物がそうであるように海水も波動を放っているはずですから、その波動と一体化して万物に宿る宇宙の意識を感じるという日常の態度は重要であろうと思います。

これは単なる自己暗示ではありません。自己暗示は外界の対象なしに自己の想念によって内界に変化を起こさせるのですが、海水や樹木などとの一体化は、あくまでも対象の中に溶け込むことを意味し、したがって「自分によって見つめられる物はすなわち自分の反映であり、その物も、こちらにいる自分を見つめているのである」というフィーリングを起こすことを目的とします。「鏡に映った自分自身の姿も、また、こちらにいる自分を見つめているのである」という理論がありますが、これと同様です。大体、海水自体は自分自身を冷たいとは思っていないでしょうから、真に海水との一体化に成功すれば、本当は冷気を感じないのかもしれません。ここに至るのは至難の業ですけれども、零下数十度の冷水の中にハダカでつけられて平気でいる行者もいますから、まるきり不可能でもないでしょう。しかし無理をしないでボツボツ練習してみて下さい。

（編者）

アダムスキーが人生を変えた

山形県　漆山晃治

寒冷の候、今年は例年より暖かくしのぎやすい日々が続いておりますが、先生にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

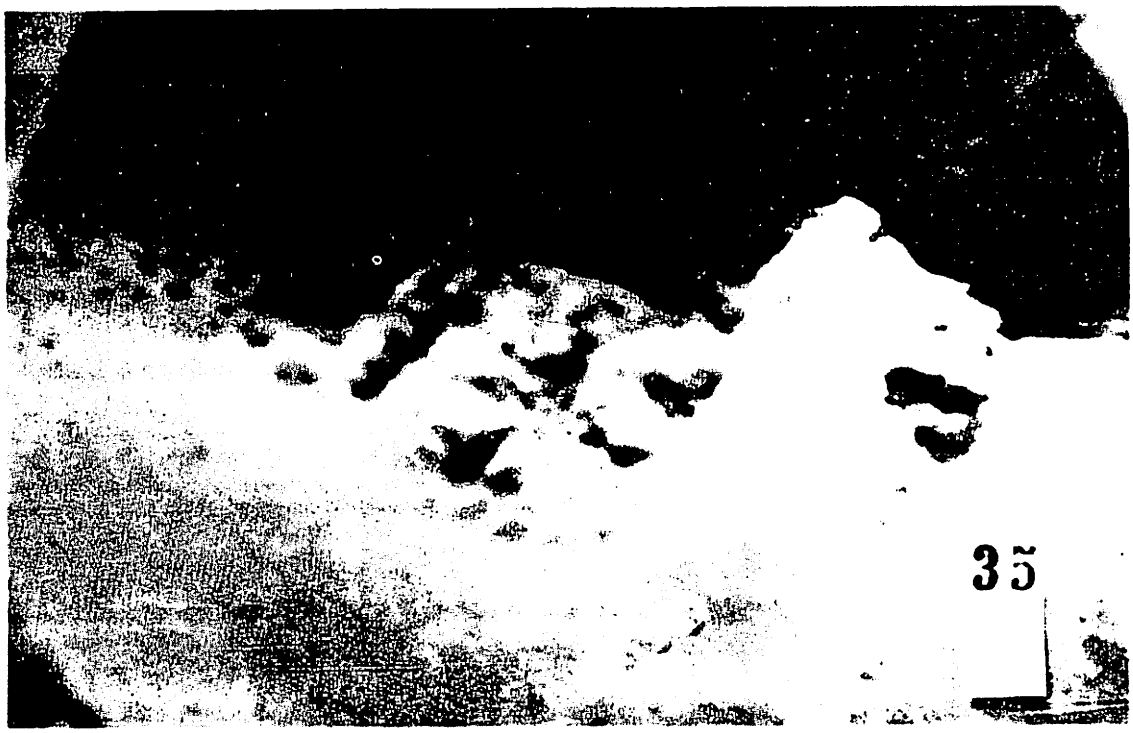
先日は貴重な写真を頂きまして厚く御礼を申し上げます。今年は私にとって大変有意義な日々を送ることが出来ました。五月には新潟支部総会へ出席し、先生にお会いできましたし、先月は日本GAP総会へ出席し今月四日には山形支部発足式を行なうことが出来まして衷心より感謝申し上げます。

思い起こせば五年前、自己の感情に振り回されていた為に、ある事故を起こし、明日に生きる気力を失っていた時に、偶然友人より借りたG・アダムスキー氏の空飛ぶ円盤実見記を拝見し、世の中にはこんなに生き生きとすばらしい人生を送っている人がいるのかと驚嘆し、早速先生宛に日本GAP入会の手紙を書いた次第です。そして今日の私の生活、とても考えることが出来ませんでした。今後共、日本GAPの発展と自己訓練に努力致します。

さて十二月四日（日）午後一時三十分より五時まで上山市労働福祉会館において山形支部月例研究会を開催致しましたので御報告を申し上げます。（中略）

あいにくの曇天にもかかわらず、一同が顔をそろえて活発に話し合いました。発足式はジュースで乾杯し今後の運営について全員で話し合いました。特にサイコロテストでは、三名の方が九十点以上という成績で日頃の訓練の成果と思います。

GAP総会の感想としては、全員参加して有意義だったと話され、特にステッリング氏の講演が印象に残っていました。スライドでは月面裏側の初の写真、火星の大気層を写した写真等に興味が集まりました。また、先生の活発な通訳に感動致しました。そして要望として、ステッ



●月面の雲の群れ（アポロ宇宙船撮影）

●月の裏側の奇妙な3角形の穴（右端と左端）。人工の湖か？

クリング氏が撮影された映画と質疑応答の時に、もう少しくわしく説明して頂ければという意見がありました。

ヨハネ黙示録解読試案

千葉県　遠藤昭則

「ヨハネの黙示録」を訳してみました。御検討をいただければ幸いです。

参考文献は「宇宙哲学」「生命の科学」「テレパシー」「GAPニューズレター」「啓示による黙示録解説・上巻」イマヌエル・スエデンボルグ著、「新約聖書・英語版」国際ギデオン協会、「聖書」日本聖書協会等です。

黙示録を訳してみようと思いついた経過は以下のとおりです。

「GAPニューズレター」59号のアリス・ウエルズが言っている

「アダムスキーはかつてのイエスの十二弟子の一人でした……だからバイブルでイエスがペテロに言ったわけです。『私が来るまで彼がここにいるとすれば、あなたにとってこれは何を意味するのか』と」

という個所の彼とは誰なのかと探してみましたら、どうもヨハネのようでした。そこで黙示録をみて、以前先生が言われた「『黙示録』は生命の科学のようである」というのを思い出し、なるほどアダムスキーはヨハネであったのだという印象が強まりました。

またイエスについてですが、これもアリスが言っている

「そして二千年後に再度一宇宙人としてやって来ました。しかし今度のカルマは地球で誕生して生長する必要はないんです。もっと別なカルミックな負債があるんです」

という所にカギがあると思いました。そしてヨハネはイエスの胸に顔をくっつけて尋ねるほど親しい間柄であったので、二千年後にアダムスキーと親しかった宇宙人。そして私の印象ですが、イエスは金星人であったと思うので、再度？　金星人。そしてアダムスキーの住んでいた家に絵となって、常にアダムスキーが心にとめていた人。そして「私は真理である」と二千年前に言った人。以上からオーソンがイエスではないかという印象が強まりました。

以上のことから「ヨハネ黙示録」を解説してみようと思いたち、そしてアダムスキーが『『生命の科学』の第一課と第九課が重要である」と言っていることを思い出しながら訳し始めました。二月の月例会で先生がアダムスキーとオーソンの過去世について話して下さった時に、確信がわいた次第です。

またアダムスキーのもう一つの過去世ですが、「宇宙からの訪問者」の第二部第十章で、アダムスキーが土星の母船で会ったマスターとのことで、

「私としては初対面でない人がそこにいるような気がして、相手に対してすぐに心からの愛情と親密さを感じた。たしかに一、二度は読者も（見知らぬ人に対して）これに似た経験があるだろう」

と言っています。このマスターのフィーリングでアダムスキーは、このような印象を持ったのかもしれません。しかし「読者も見知らぬ人に対して」という所があります。私はこの個所はアダムスキーがこのマスターに以前会ったことがあるという意味のことを言っているのではないかと思います。

とにかく「ヨハネ黙示録」は「生命の科学」の更に深い説明を述べた個所があるようです。

× × ×

以上の前書きで遠藤氏が編者に渡された一七四頁に及ぶコピー製本の解読書を読んで驚嘆したのは、十二月の月例会の後です。二月に最初の部分のコピーを頂いていたが、その後、超人的な努力を重ねたらしい。難解というよりも奇妙キテレツな文章に満ちている「ヨハネ黙示録」は実は肉体の機構と宇宙の意識との関係を説いた一種の生命の科学であったという説があり、それをヨハネが官憲の圧迫を避けるために豊富な比喩を用いてボカして書いたのだといわれています。遠藤氏の卓越した直感力には脱帽のほかありません。ここには紙数の都合によりその一部を掲載しましたが、続きは次号に載せます。読者も聖書と比較しながら検討してみて下さい。遠藤氏はこの解説を続行中、ある夜、夢の中で白髪の老人から激励を受けたそうです。

（編者）

× × ×

第一章

一、創造主と、我々との関係についての予告。これは創造主が、地球人が死滅しないようにと、必ず起こるべきことを、宇宙的な道を慈悲と信念をもって歩んでいる者達に明らかにするために他の進化した惑星の人々を通して伝えられたものである。

二、慈悲と信念をもって宇宙的な道を歩んでいる者達は、宇宙の意識と一体化することにより、意識からの印象を感受することができる。すなわち、以下に述べてある事柄を受け入れ、理解することができるのである。

三、この、いわば宇宙の書物というものに従って歩むように、各細胞を忍耐強く指導できる者達は、スペース・ブラザーズと接近することができる。なぜなら、地球人の状態は、もはや創造主から離れてしまっているほどであるから。

四、宇宙的な細胞から、真理の光を放ち、各細胞を支配している七つの神経中枢へ。これらの中枢は、創造主の教えに従って歩むことによって創造主との一体化をなすことができる。

永遠であり、無限であり、過去・現在・未来にわたって存在するあらゆるものを創造された宇宙の意識から、また、この知的パワーの存在する七つの神経中枢から。

五、また、宇宙の真理（注・宇宙の活動）そのものであり、あらゆる活動の因、結果の世界での各神経中枢の働きを指導している創造主の生命から、知恵と平安とが、各神経中枢にあるように。習慣細胞を愛と慈悲で、そしてその指導で意識的にし（注・宇宙の意識の動き）、

六、習慣細胞を、その創造者である宇宙の意識と一体化するように、それらを人体の宇宙的な細胞として、意識の感受者となるように指導している宇宙的細胞に、永遠に英知と生命力とがあるように。真に。（注・「アァメン」は心と意識との一体化を示しているのかもしれませんが、「真に」としました）

七、創造主は、各神経中枢が宇宙的に働き出すときに、その宇宙的な各神経中枢の扉を開くであろう。信念と忍耐により、宇宙的活動を理解している細胞は、宇宙的な印象を受け入れるであろう。しかし、利己的な細胞もまたそれを受け入れることができるであろう。結果として現われている各チャクラの中に、もはや宇宙的なものが存在しないように見える時でも。真に。

八、永遠であり、無限であり、過去・現在・未来にわたってあらゆるものに存在し、活動そのものであり、英知ある力を通じてあらゆるものを想念により創造し、結果の世界に現わされた創造主。唯一主であり、人間を通して愛を現わし、英知であり唯一の英知であり、生命それ自体であり、原因の世界と結果の世界とのあらゆるものにある創造主。

九、創造主により創造された、利己的な影響を受けてはいるが、忍耐力をもって宇宙の意識と一体化することができる、各チャクラの支配下にある、慈悲と信念をもつ、宇宙的細胞が、宇宙の英知の指導のもとに、ひいては真理の光の中に受け入れられるように、またセンス・マインドが意識と一体化することにより、今まで素通りさせていた、意識からの印象を受けとり、次第に宇宙的な道を歩み始めるようにと、私、ヨハネは、スペース・ブラザーズとコンタクトするためにパトモス島にいた。

一〇、以上のように示される宇宙的細胞により、私は意識の印象を感受して、映像を見た。しかし、このと

きはまだ意識的意識の状態の初めであった。そしてその感受したことはスペース・ブラザーズにより、正しいことが確認された。

一一、意識から以下のような印象を受けた。また、スペース・ブラザーズも言った。

「あなたが見ているものを子孫に示すために書物にしなさい。そしてその内容を、各機能を有する仙骨尾てい骨神経そう、腰仙骨神経そう、太陽神経そう、心臓神経そう、咽頭神経そう、松果体、大脳皮質（注・性腺、ライデン腺、副腎、胸腺、甲状腺、松果体、脳下垂体）の七つの神経中枢にあてはめて考えなさい」

一二、そこで私は、そのような印象がどこから来るのか見ようと、すなわち、さらに因の領域を探求しようと意識的になった。すると、宇宙の意識により光輝を発している七つの神経中枢とその細胞群が見えた。

一三、各神経中枢と、その支配下にある細胞群とを創造した因の領域には、無限の意識エネルギーを放出している創造の力があった。

一四、その英知、想念（注・エネルギー）は、原因と結果の世界のあらゆる宇宙的な活動の源であり、感知力をもち、理解力である。

一五、その結果の世界での現われは「自然」そのものであり、宇宙の中における自然な活動そのものである。

一六、創造主は、あらゆる宇宙的行動と活動とに関する英知を中枢から発し、想念という宇宙の言葉によってセンス・マインドを宇宙的な方向へ向かわせる力をもち、それ自身は形なきものであるが、慈悲と英知をもち、結果の世界では力に満ちあふれている形となる。

一七、急激な意識のパワーのために私、ヨハネは倒れてしまった。すると私は創造主の生命力に満たされてよみがえり、そして、スペース・ブラザーズが言った。

「エゴの意志を意識の意志にまかせることに不安はいらない。創造主は無限であり、永遠であり、

一八、また、諸々の創造物を生かしている生命力であるのだから。これまで創造主が理解されなかったこともあった。しかし今、永遠の生命力を現わしていることが解るであろう。

一九、そこで、あなたの今見たことを、子孫に示すために書物にしなさい。

二〇、あなたが宇宙的な映像として見た、七つの星と七つの金の燭台の意味はこうである。すなわち、七つの星とは、七つの神経中枢と一体である宇宙的細胞による肉体の制御のことであり、七つの燭台とは、七つの神経中枢とその細胞群のことである」

第二章

一、仙骨尾てい骨神経そう（注・性腺）と一体である細胞へ。

『あらゆる知識をもち、各細胞をそのパワーにより生かしている創造主が以下のように示される。

二、私は、あなた達のカルマと苦労と忍耐力とを知っている。また、宇宙的なことを行なっていると言っている細胞が、実は誤りをおかしていることを許しておくことができず、それらの細胞達の誤りを探求し、誤りであるということを見抜いたことも知っている。

三、あなた達は、忍耐力を持って原因と結果の法則の研究をし、また、それを教えようとする強い信念をもっている。

四、しかし、あなた達に言うべきことがある。あなた達は、あなた達が創造された真の目的から離れてしまい、宇宙的な真理を認めてはいるが、日常生活の真理についてはそのように考えようとはしなくなった。

五、それで、あなた達の過失を思い出し、訂正して、宇宙の意識に従いなさい。もしそうしなければ、真理を見ることができなくなってしまうであろう。

六、しかしあなた達は、栄光を自分に帰し、堕落して、誤りや淫らな行ないをすることは宇宙の法則に反する、ということを知っている。

七、理解する者は宇宙的な仲間（注・宇宙的細胞）のように、宇宙の意識に従いなさい。習慣想念を抑制できる者は、創造主の英知と一体化することにより、各神経中枢（注・内分泌腺組織）は調和し、宇宙的な愛と理解とが現われるであろう』

八、腰仙骨神経そう（注・ライデン腺）と一体である細胞へ。

『あらゆるものを創造し、生かしており、しかしかつては無視され、結果の世界の人間の動きは同時に原因の世界の動きである、ということが知られていないが、それでもやはり万物を生かしている、永遠である創造主が以下のように示される。

九、私はあなた達の過失や、奉仕の力の欠如の原因とそれにより生ずる結果とを見ている。（注・しかし、あなたは初めから豊かであるのだ）また、創造主に従うことにより、特別な発達をしたために選ばれたのだという主張をしている者達（注・実際には誤用をしていて、再生されていない者達）に悪く言われていることも知っている。

一〇、あなた達は、利己的な想念の影響を受け、過失を犯しても絶望してはならない。あなた達が悪魔細胞に対抗するのに対して、彼らは利己的想念によって影響を与えようとしている。それは、あなた達がそのような誤りをしているかぎりは続くであろう（注・浄化のための期間）。そのためにも宇宙の真理を受け入れ理解し、誤りを訂正してそれを捨て去りなさい。その時あなた達は、調和した肉体をコントロールする力を得、永遠の生命を得るであろう。

一一、これらの事柄を理解する者は創造主に従いなさい。幾多の利己的な事柄や、過失から湧き起こる不快さを気にしないように努力する者達は、今後、部分的な再生による利己的な想念波動や、過失に影響されて後退（注・堕落）することはないであろう』

一二、太陽神経そう（注・副腎）と一体である細胞へ。

『利己的想念や過失を消散させることができる創造主が、以下のように示される。

一三、私はあなた達の性質が解っている。その中には創造主を知っているだけで、悪魔細胞と共になって、創造主に近づこうとしない性質があり、太陽神経そうの機能のコントロールをかくしてしまっている。しかしこの時でさえ、あなた達は、創造主に従う知識を持っているので、悪魔細胞が宇宙の真理をそのように創造主から離れてしまう方に使うようにしたときでさえ、宇宙の意識への信頼だけは持ち続けていた。

一四、しかし、あなた達に言うべきことが少しばかりある。あなた達の中には、宇宙的細胞と調和してきたにもかかわらず、誤用と淫らな感情によって、宇宙的細胞を支配しようという欲求を抱いている者がある。また、実際支配もし、宇宙的な道を歩んでいる細胞の前に、つまずきになるものを置き、創造主の分身である仲間を汚し、冒瀆し、創造主を探求しようとする歩みを不導化し、歪曲した。

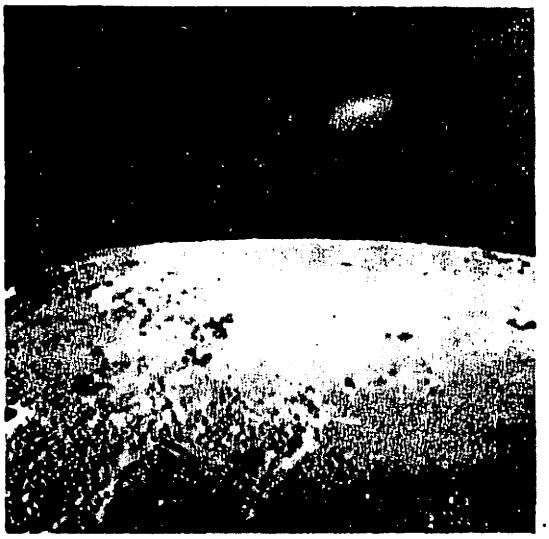
一五、同じように、あなた達の中には、行ないをしたことの栄光を自分自身に帰し、功績を自分のものとしている者達もいる。

一六、だから、こうした行ないにあなた達も引きずられないように直視して宇宙的な行ないをしなさい。そうしないと、創造主はあなた達に宇宙的想念によって、今までの行ないが未発達なものであるということを知らしめるであろう。

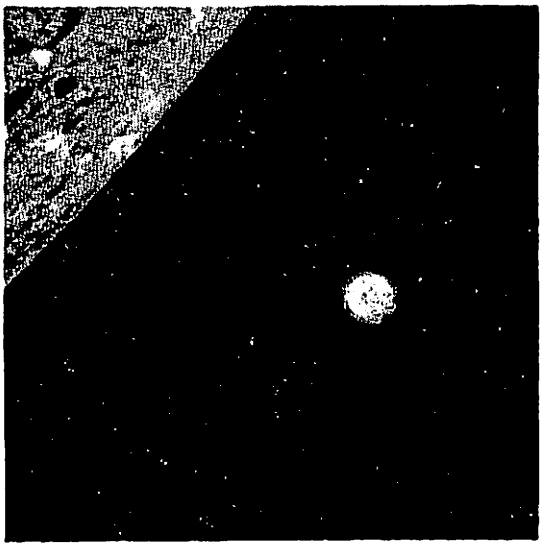
一七、理解する者は、宇宙的細胞のように、宇宙の意識に従いなさい。習慣想念を抑制できる者は、宇宙の意識と一体化することができ、宇宙的な印象を得、宇宙的な行動に対する信念と、さまざまな宇宙の真理を発見することができるであろう。

（注・血液中に分泌物を放つ副腎組織の宇宙的な変化により、新鮮さを取り戻す）このようにしてあなた達は、以前もっていなかったような宇

（30頁へ続く）



●月面上空のＵＦＯ（アポロ12号撮影）。



●月面上空のＵＦＯ（アポロ13号撮影）。

米ＧＡＰ本部発行機関誌
「コズミック・プレティン」
一九七七年十二月号より。

× × ×

日本講演旅行の報告

フレッド・ステックリング

私と家内は大成功の日本講演旅行から今帰ったところです。日本における私たちの滞在中に示して下さった温かい歓迎とすばらしい日々に対して久保田八郎に深甚の謝意を述べたいと思います。また私たちの旅行の募金に協力して下さり、この招待計画に深い関心を示された数百名の会員諸氏に感謝したいと思います。

久保田氏と共に行動できたことは一つの特権であり喜びでもありました。日本の人々に真理をもたらそうとする氏の深い関心とまじめさは、たしかに立派です。私たちは予定より少し遅れて東京に到着しました。すると久保田氏と助手の塙氏が税関の外で待っていました。

多くの行事は慎重に計画されていて、万事が順序よく能率をあげて全スケジュールを快適なものにしました。あらゆる計画がすでに立てられており、十一月十三日の日曜日には朝早くからホテルで迎えを受けました。この日は日本ＧＡＰの会員、新聞社、一般のための終日に及ぶ大会が開催されたからです。

まず久保田氏による開会の挨拶があり、続いて私が氏の通訳のもとに講演を行ないました。私たち夫妻は多数の聴衆に語りました。東京の中心地にある新しいヤクルトホールは全国から集まった人で一杯になり、この人々はオープンマインドをもって参集したのでした。

講演、スライド、映画、質疑応答などで、総会は約十時間も続きました（注＝これは役員慰労会も含めてある）。そのあとの日々は個人的なミーティング、夕食会、観光などが続きました。

日本滞在中、私たちは全国放送網をもつテレビ局に招待され、後日放映されるためのビデオ録画に出演しました。これは一九七七年十一月二十五日の夜八時から九時までのゴールデンアワーに放映されることになっていました。持参したフィルムとスライドのすべても映写されました。テレビ局のスタッフはきわめて丁寧で儀礼的であり、私たちに美しい花束の贈呈が行なわれました。久保田氏は日本で多数の人と共にすばらしい仕事をやっており、日本におけるジョージ・アダムスキー財団（注＝米ＧＡＰ本部）を代表しています。

何よりも、この日本への旅行は、大いなる好意と品位を示されたものの一つであり、これはスペース・プログラムの意図に沿うものであります。

注＝以上の記事は十二月二十一日に到着した米ＧＡＰ本部の機関誌に掲載されたものの全訳です。全部で九頁のこのプレティンに海外出張講演に関してこれほどの賛辞を呈した記事が載った前例はなく、これをみてもステックリング氏夫妻が日本ＧＡＰ総会の招待にいかに感動したかがわかります。会員の皆様に更めて御礼を申し上げます（編者）。

「生命の科学」朗読テープを無料進呈

「生命の科学」一冊全部を私が朗読したカセットテープを重症者一名限りお贈りします。
〒四一〇―二二　静岡県田方郡伊豆長岡町一九一―七　高梨和明

本誌掲載記事コピー頒布

本誌旧号に掲載のアダムスキーの記事「進歩した思索家のために」と「スペース・ブラザーズはなぜ来るのか」のコピーを頒布します。希望者は頒価各一五〇円と送料（一冊でも二冊でも）一五〇円を添えて左記へお申し込み下さい。
〒五二九―一六　滋賀県蒲生郡日野町仁本木五七七関谷正明
振替京都三二〇一六

「テレパシー」録音テープを頒布

ＧＡＰ東京月例会における久保田代表の「テレパシー」講義一時間分の録音テープを頒布します。希望者は頒価一〇〇〇円送料一四〇円を添えて左記へお申し込み下さい。
〒二七四　千葉県船橋市前原西8―5―18浜村逸郎

「生命の科学」筆記録を頒布

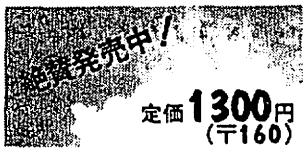
ＧＡＰ東京月例会における久保田代表の「生命の科学」講義一時間分の録音テープを完全に筆記した筆記録（手書きコピー）を頒布します。希望者は頒価五〇〇円　送料一四〇円を添えて左記へお申し込み下さい。（昨年七月分・八月分）
〒九八九―一七　宮城県柴田郡柴田町本船迫内沼田96の2　安藤澄雄

■米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得！

宇宙からの訪問者

＝偉大な惑星人との会見記＝

●空飛ぶ円盤は実在する！　遠い惑星から、偉大な進化をとげた人類が、大宇宙船を駆って地球の救援に飛来……壮大な宇宙空間の大スペクタクルと驚異的事実をつたえた本書は、まさに20世紀最大のドキュメントだ！

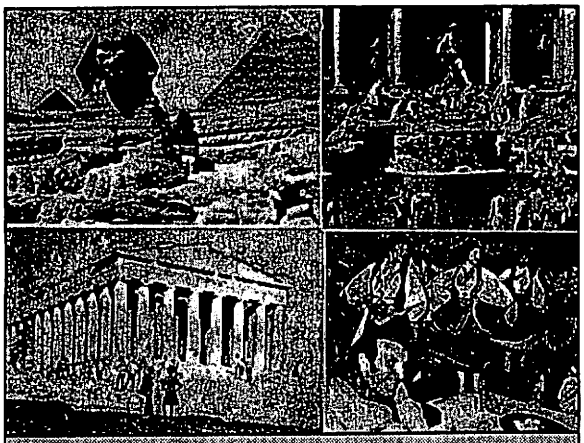


ジョージ・アダムスキー／著
久保田八郎／訳

●「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円盤同乗記」として名高い二点の記録書をアダムスキー研究家として著名な久保田八郎が流麗平易な訳文により全面的に改訳、「実見記」のうちアダムスキーの手記と「同乗記」全文を合本として事件の理解を容易ならしめ、また未発表写真を含め50点以上の写真・図解を一挙掲載した決定版である！

ユニバース出版社
〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
☎832-1341～44 振替 東京1-119478

●書店にない場合は直接小社までご注文ください。



★さの眼で見よう　謎と神秘に満ちた雄大壮麗な
エジプト・ギリシア・ローマの
遺跡群と、奇跡のルールドの聖泉を！

企画 第2回　エジプト宇宙考古学遺跡の旅

行こう！古代の神々の国へ！

大成功を収めた第1回の中米宇宙考古学遺跡の旅に引き続き、今度はエジプトを主体にまたもすばらしいツアーを企画しました。参加者多数が予想されますので、早目にお申し込み下さい。(定員50名)

●期　間　昭和53年8月12日→26日(2週間)
●費　用　50万円弱(航空運賃・朝食付ホテル代・その他の費用を含む)。12ヵ月、24ヵ月分割払いも可。
●申込先　〒110 東京都台東区上野5－1－6、ヤマトビル
ユニバース出版社ツアー係(140円切手同封お申し込みの方に詳細説明書をお送りします)
●主要見学地　〈フランス〉パリ市内、ルーブル美術館、ノートルダム寺院、モンマルトルの丘、サクレクール寺院、凱旋門、その他。〈パリより列車でルールド行き〉洞窟・聖泉・大聖堂。〈列車でヌベール行き〉サンジルダール修道院のベルナデットの遺体。〈イタリア〉ローマ市内、パンテオン神殿、サンピエトロ寺院、バチカン宮殿、その他。ナポリ市内、ポンペイ遺跡。〈ギリシア〉アテネ市内、アクロポリスのアテナ、ニケ、パルテノンの各神殿、ゼウス神殿、コリント遺跡、ミケーネ遺跡。〈エジプト〉カイロ市内、エジプト博物館、ギゼーの3大ピラミッド、スフィンクス、サッカーラ遺跡、ルクソール神殿(これのみオプショナル・ツアー)。その他。
●同行者　久保田八郎(ユニバース出版社会長・UFOとミステリー研究家)
●共　催　ユニバース出版社　株式会社トラベル日本
●企　画　国際アカデミック・センター　ユニバース出版社
●協　力　ギリシア政府観光局

日本GAP各地月例研究会案内

支部名	日　時	会　場	会費	携行品・行事
東京本部	毎月第2土曜日 午後2：00→6：00	上野公園内「東京文化会館」4階会議室。電話(828)2111。国電「上野駅」の「公園口」下車，改札口の真向かいスグ。会館正面に向かって左側の入口から入り，奥のエレベーターから4階へ行く。 連絡先＝久保田八郎 03—651—0958 **※本年6月より12月までは都内皇居北の丸公園の科学技術館に変更。詳細は次号。**	¥300	テキストとして「テレパシー（文久書林刊)」を持参。2：00→3：00「テレパシー」講義，3時→4：30主宰者挨拶・報告，テレパシー練習，休憩。4：30→6：00自己紹介，研究発表，質疑応答。
大阪支部	毎月第3日曜日 午後1：00→5：00 **6月のみ17，18日の2日間**	大阪府吹田市出口町4丁目「吹田市民会館」電話(388)7351。 国鉄または阪急電車「吹田駅」下車。連絡先＝片京0720—31—5646	100	テキストとして「宇宙哲学（たま出版刊)」「テレパシー」を持参。 **6月例会には久保田主宰者出席，講演，6月のみ日¥200 アメリカ・メキシコのスライド公開。地区会員には詳細通知。**
高知支部	毎月第1日曜日 午前10：00→	高知市桟橋通り2—1—55 「青年センター」電話(31)4931 連絡先＝橋詰利光0888—42—3884	100	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1：00→5：00 **4月のみ29日(土)午後1：00→6：00**	新潟駅前「青年の家」 電話 0252—44—6766 **4月のみ新潟駅前プラザービル4F**	200 **4月のみ¥2,000**	テキストとして「テレパシー」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の「テレパシー」講義録音テープを公開。 **4月例会には久保田主宰者出席，講演，アメリカ・メキシコのスライド公開。地区会員には詳細通知。**
熊本支部	毎月第3日曜日 午後2：00→5：00	熊本市桜町「熊本市民会館」会議室。電話(55)5235。国鉄「熊本駅」前から市電「健軍」行き乗車，「お城前」下車，同交差点左折，徒歩2分。 連絡先＝津野田俊行 0963—52—3381 （代表＝斉所秀雄） **2月のみ会場は熊本市二本木 3—12—45 常通寺（津野田宅）**	100 **2月のみ¥1,500**	テキストとして「テレパシー」（文久書林刊)」を持参。2：00→3：00久保田主宰の東京例会における「テレパシー」講義録音テープ公開。3：00→5：00自己紹介，座談，質疑応答。 **2月例会には久保田主宰者出席，講演，アメリカ・メキシコのスライド公開。地区会員には詳細通知。**
福知山支部	毎月第4日曜日 午後1：00→5：00	福知山市「福知山市民会館」2F会議室。駅前から右方向の道路を直進し，2つ目の信号機の所。	50	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」「宇宙哲学」，久保田主宰者の講演録音テープ公開，テレパシー練習，自己紹介，研究発表，質疑応答。
岐阜支部	毎月第3日曜日 午前9：00→12：00	岐阜市神田町「商工会議所」電話（64）2131。国鉄または名鉄「岐阜駅」下車，徒歩10分，バスか市電で「柳ケ瀬」下車，近鉄百貨店を北へすぐ近く。 連絡先＝松尾和也0582—51—8567	300	テキストとして「生命の科学」「テレパシー」「宇宙哲学」を持参。支部長松尾氏による「生命の科学」解説。質疑応答，座談。**5月例会には久保田主宰者出席。講演，アメリカ・メキシコのスライド公開。当日のみ午後3時まで。地区会員には詳細通知。**
仙台支部	毎月第4日曜日 午後1：10→4：20	仙台市「市民会館」会議室（西公園内） 連絡先＝笠原弘可 0222—29—4305 田中義則 0222—46—1350	200	東京本部月例会における久保田主宰者の講義録音テープ公開，テレパシー練習，座談会。
山形支部	毎月第1日曜日 午後1：30→5：00	上山市「労働福祉会館」2F会議室。電話02367(2)6082。月岡公園入口より左側へすぐ。 連絡先＝漆山晃治02367—4—3414 山口　緑02367—9—2555	200	テキストとして「テレパシー（文久書林刊)」を持参。東京本部例会における久保田主宰者の講演録音テープ公開，テレパシー練習，研究発表，座談会。
札幌支部	設立準備中。（会場は札幌市中央区大通西丁目，札幌市民会館を予定)。詳細は〒060札幌市中央区大通東5丁目13　伊藤重信氏へ連絡。			

アダムスキー哲学三大名著　絶賛発売中！

スペースブラザーズから伝えられた宇宙的思惟法と宇宙的な生き方とを三部に分けて詳述。GAP会員必携の書。注文は各出版元へ直接にどうぞ。

G・アダムスキー　久保田八郎訳

宇宙哲学

￥750　〒160

東京都新宿区納戸町33 たま出版　振替東京94804

宇宙問題探求者必読の書

宇宙人から伝えられた人間の生き方を詳述

テレパシー■生命の科学

ジョージ・アダムスキー/久保田八郎訳

￥450　〒160　　￥550　〒160

絶賛！アダムスキーの弟子でありコンタクティーでもあったフレッド・ステックリングのすばらしい体験記と哲学！　特に幼児教育について重要な示唆を与える。宇宙問題探求者必読の書！

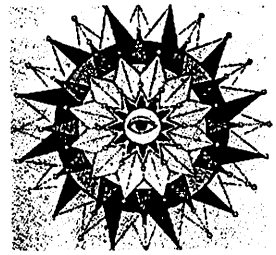
★★なぜ空飛ぶ円盤は来るのか★★

フレッド・ステックリング/久保田八郎訳

好評発売中！　￥650　〒160

文久書林　東京都文京区白山1－29－12　振替・東京2521 Tel.(813)2495

①



②

①オーソン肖像写真
②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第2部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウェルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。(キャビネ判)(カラー写真)

②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は"すべてを見透す眼"で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド(心)の発達状態をあらわしている。(サービス判)(カラー)

上記2点共、スペース・ブラザーズとの一体化を図る上で重要な資料となるものです。他所では入手できません。ご注文は必ず日本GAP宛直接に振替でどうぞ。

①￥500〒100 ②￥200〒50 一括注文の場合〒100

編集後記

★既報のとおり昨年十一月十三日には東京・新橋のヤクルトホールで、フレッド・ステックリング氏夫妻を招待して昭和五十二年度日本GAP総会を開催し、講演と映画の盛大な大会を実施しました。当日は満員の盛況で、素晴らしい講演により宇宙的雰囲気が満ちて有益な一日をすごすことができました。募金運動にご協力下さった全国の会員諸兄姉に衷心より御礼を申し上げます。都合により参加できなかった方々のために、本号に講演の全文を掲載しました。

★編者久保田八郎は昨年十一月上旬よりユニバース出版社の会長として常勤せずに自宅で仕事をしています。したがってGAP関係の照会やご質問等は必ず編者宅（日本GAP本部）宛に郵便でお送り下さるようお願いします。きわめて多忙ですが、ご質問は遠慮なくお寄せ下さい。できる限りご返事を差し上げます。

★昨年の「宇宙考古学遺跡の旅」における米国GAP本部訪問とメキシコの遺跡めぐりのスライド及び、先般の日本GAP本部とステックリング夫妻の滞日記録スライド等、計二時間分を地方支部で公開します。希望される支部は早目に本部へお申し込み下さい。編者がスライドを携行して出張します。この件、ご照会次第詳細をお知らせします。

★ユニバース出版社の企画第二回「エジプト宇宙考古学遺跡の旅」は今年八月より二週間の予定で、エジプト、ギリシア、ローマ、フランス（パリとルールドを含む）の各遺跡めぐりを実施します。案内書はユ社宛お申し込み下さい。GAP会員で参加予定者は別に顔写真を添えて、編者宛に（GAP本部宛）参加の旨をご一報下さい。旅行用参考資料の入手法等をお知らせします。

★今後本誌にステックリング氏による「質疑応答」欄を設けますから、同氏宛質問があれば編者宛お送り下さい。当方より米国の同氏宛に一括してテープで質問事項を伝え、同じくテープで返送される回答を翻訳して本誌に掲載します。ご質問には必ず「ビスタからの友情」宛と但し書きをつけて、編者宛の質問と区別して下さい。質問の取捨選択は当方にお任せ下さい。ただし質問者個人には回答を送らず、本誌に掲載しますからご了承の程を。

★日本GAPは会員個々の精神的向上のみならず、他人を扱助して彼我ともに良きカルマをつくることを眼目とします。この具体的方法に関してアイデアのある方は原稿を本部宛ご投稿下さい。またアダムスキー問題に関する啓蒙活動の方法、宇宙哲学やスペース・プログラムについての意見・感想・論文・実践体験記等、何でも結構ですから、どしどしお寄せ下さい。ただし「会員の声」欄宛の投稿の場合はその旨をご明記の程を(以上、原稿用紙使用)

★京都市の会員・木村幸夫氏は心臓・心気抗過症で外出不可能なため、地元の会員でどなたか同氏を見舞って激励して下さる方はないものかと、宮城県の安藤澄雄氏より連絡がありました。木村氏のご住所は〒600京都市下京区楊梅西洞院東入59です。手紙でも結構です。有志の方、よろしくお願いします。なお初期からの会員・平野三郎氏も眼病で長く病臥中です。録音テープで激励の言葉をお送り下さる方は〒847－12佐賀県東松浦郡北波多村徳須恵へどうぞ(これは編者からのお願いです)。

★大不況の世上ですが、生き抜くための最大の手段は"宇宙の波"に乗って良きカルマをつくることにあります。互いに激励し合いながら頑張りましょう。ご送金は現金書留でなしに必ず郵便振替でお願いします(K)

GAPニューズレター　63号

編集発行人　久保田八郎

発行所　日本GAP

〒133東京都江戸川区本一色町365－818

振替東京4－35912(久保田八郎名義)

January 20 1978　頒価300円・送料200円